

令和6年度 前期学校評価

- 自己評価
- 児童アンケート
- 学校関係者評価



小中一貫校

南アルプス市立 白根東小学校

白根東小学校 前期学校評価考察

1 成果が上がってきていること

- ・今年度だけでなく、これまでの取組の成果が上がってきていることの一つとして、学校経営方針や校訓などを意識した取組ができていることが挙げられる。中でも五本の木（「やる気・元気・根気・勇気・思いやり」）という校訓については、これまでの一貫した取組が児童へも確実に伝わっており、様々な活動の中で意識して取り組むことができるようになってきている。
- ・学習（授業）の面では、児童の回答の中で「授業はわかりますか」の質問に対して「D」と答えた児童がゼロであったこと、職員の多くが児童に基礎的・基本的な力を身に付けさせるために教材研究を行ったり、校内研究の成果を取り入れたりしていることなどから、着実な成果が見られると考える。
- ・「きまりや約束ごと」を守る意識も児童の中に確実に根付いてきており、引き続き全職員の共通理解の下、決まりや約束ごとについて確認していきたい。
- ・ケータイやスマホのルールについては、今年度、高学年児童の回答に改善が見られている。全校でICTの活用やSNSのメリット・デメリットについて学習する機会を設けたり、各家庭での話し合いに協力を求めたりした成果であると考えられる。
- ・いじめ、不登校や問題行動、あるいは災害等に対する危機管理の意識が高く、職員の共通理解が図られている。また研修の機会を設定することで、児童の様子を正確に把握したり、困っている児童への対処の仕方を学んだりすることができてきている。今後も職員同士の情報交換も含め児童理解を深めていきたい。

2 課題となること

- ・学習面では、児童の発表する力を伸ばしていくことが課題になる。高学年の特徴でもあるので、5・6年生のD評価があることはうなずけるが、全体的に発表することが苦手と感じている児童が見られるので、2学期以降、自分で考えたことを伝える力を伸ばしていくことも考えながら授業改善を進めていきたい。
- ・「学校での様子を家の人に話していますか」という項目については、C・Dと答える児童の割合が他の項目に比べて多い。児童が伝えきれていない部分については、学校からの便りやHPなどを活用して、学校の様子を伝えていくことが重要になる。
- ・小中一貫教育を意識した教育課程の実施については、白根巨摩中学区の大きな課題でもある。白根巨摩中学校区各校と情報交換を円滑に行うと共に、児童の様子に合った教育活動を進めていきたい。
- ・どの項目においても肯定的な回答が多く、全体としてはこれまで同様の取組が大切になると考えるが、改めて児童理解や危機管理に係る項目については、職員全体で常に研修を重ねていくことが重要であり、各学年、学級の児童の様子について情報交換する機会も大切にしていきたい。

3 学校関係者評価委員会より

- 学校が楽しくない、と答えている児童がいるが、原因を確かめているのか？
⇒アンケートなどをとると共に、原因について聞き取りを行っている。
- フリースクールなどの選択肢は、昔はなかった。それを考えると、今は学び方自体も自由になってきている。その子にあった学習環境が用意されていることはよいと思う。
- 発表する力の育成は大切。
- クロームブックの活用により、ペーパーレス化が進んでいることはよい。
- △ 児童アンケートから「自分で考えたことを伝える力」に課題がのこることがわかる。学校ではICTの活用に力を入れ、一人一台端末の利用を進めているが、ICTを活用することで自分の表現を伝える機会が減るのではないかな？
⇒担任が工夫し、授業の中で発表する時間も大切にしている。
⇒自主的に発言する勇気や緊張感は、将来社会人になったときのディベート力につながる。
会話をしながらまとめていく習慣や機会を、授業の中に位置づけ大切にしてほしい。
- フリースクールなどの受け皿があり、選択肢があるのはよい。しかし、自由すぎてもよくないと思う。保護者もしっかり子どもの様子を見るのが大切。
- ヤングケアラーや貧困など児童を取り巻く問題も多岐にわたる。学校・保護者・地域が連携していくことはもちろん、関係する機関との連携も必要になる。
- 小中一貫校としての取組が進んでいることはよいと思う。教科担任制など小学校でもできるところから少しずつ進めていくとよい。
⇒学校でも学年等で工夫しながら、教科担任制を行っている。教材研究を行う教科数が減るため、担任の負担が軽減している。また、いろいろな職員が関わることで、違う視点で子どもたちをみることができ、児童理解につながっている。
- 紙の配付物が多い。何が大切かわかりにくくなっている。配付物について、検討していく必要がある。教員の働き方改革の側面から考えても課題となる。
- 熱中症対策も工夫が必要。ペットボトルに水を入れて冷やして（凍らせて）おくと、それを握るだけで体温調節ができる。
- プール監視の際は、子どもの泳力がわかるよう帽子にマークをするなど、視える化するとよい。

<まとめ>

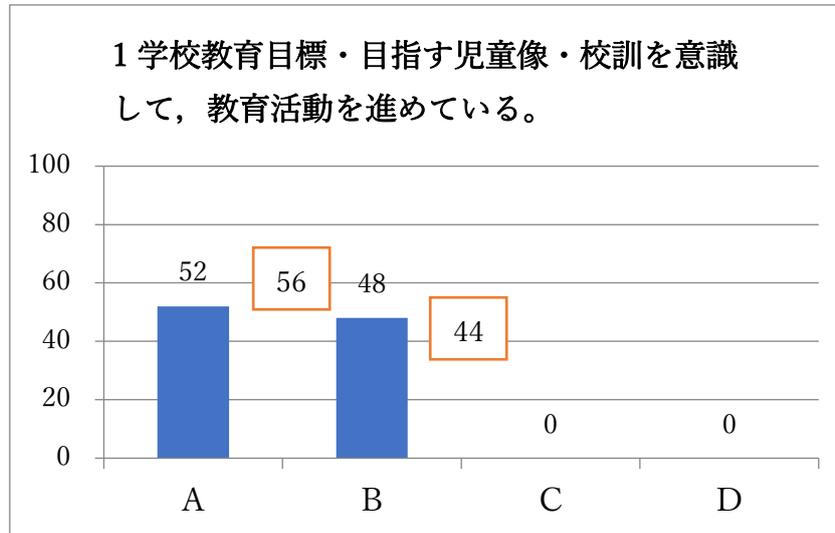
学校関係者評価会議では、学校評価の内容はもちろん、それ以外の内容についても貴重なご示唆をいただいた。特に、児童アンケートにおける「学校は楽しいですか」という項目について、否定的な回答を示した児童について、どう対応しているのか、どんな対策が考えられるかについてご意見をいただいた。また、小中一貫校として学校運営協議会の発足に向けた取り組みを進める中で、「教科担任制」や「中学校区での交流」についてどう進めていくのかについても具体例を示しながら、話し合うことができてよかった。

今回出された貴重なご意見を、2学期以降の教育活動に活かしていきたい。

令和6年度 白根東小学校 前期教職員自己評価 考察

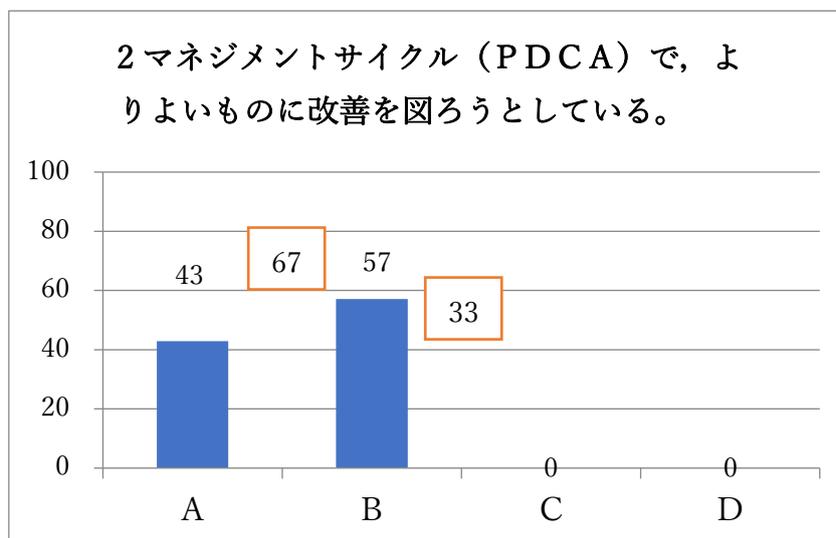
※ は昨年度の数値

1 学校教育目標・目指す児童像・校訓を意識して、教育活動を進めている。



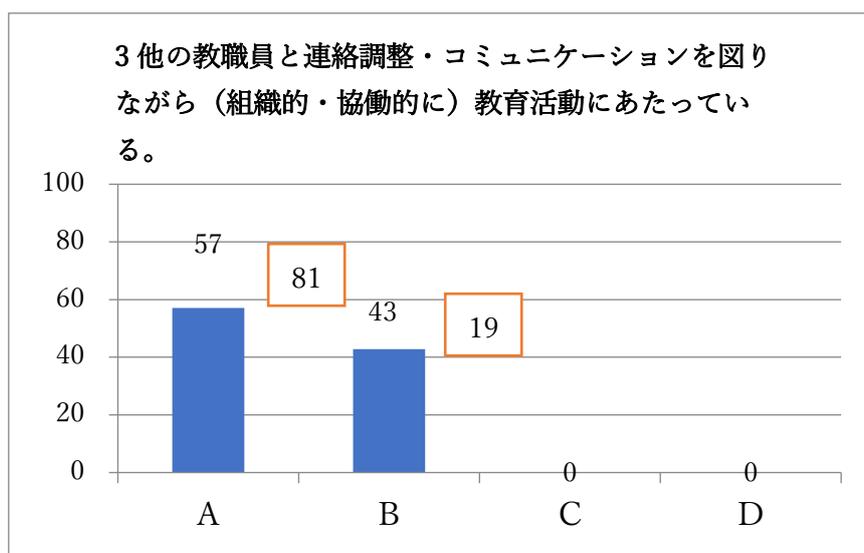
学校教育目標，目指す児童像など，職員の共通理解がしっかり図られていることがわかる。特に校訓については，年間を通して確認される場面が多くあり，学校全体に深く浸透していると考え。肯定的な考えが多く示されているので，今後も全職員で確認しながら教育活動を進めていきたい。

2 マネジメントサイクル（PDCA）で、よりよいものに改善を図ろうとしている。



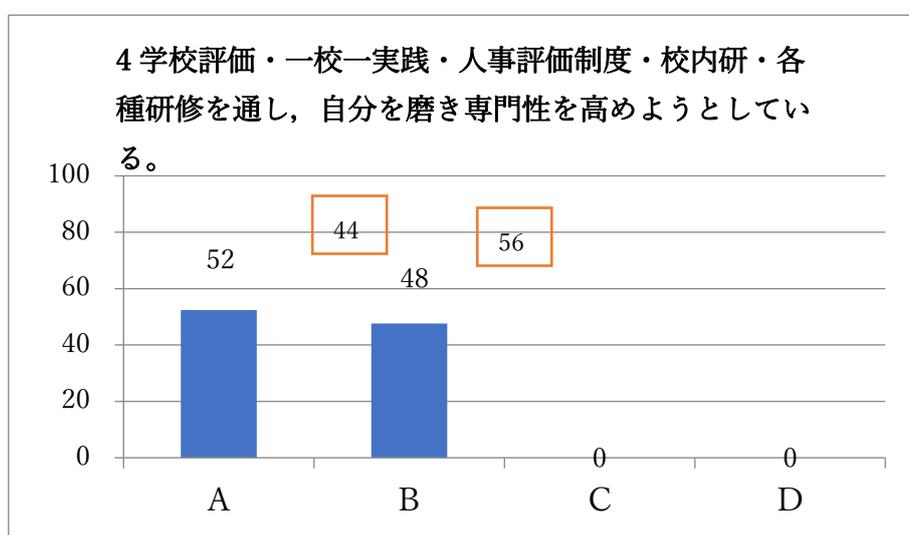
行事等において，計画段階で十分討議をしながら実施し，終了時には成果と課題を挙げて次回の取組にいかしている。結果も肯定的な考えが多いので，今後も一つ一つの教育活動に活かしていきたい。

3 他の教職員と連絡調整・コミュニケーションを図りながら（組織的・協働的に）教育活動にあたっている。



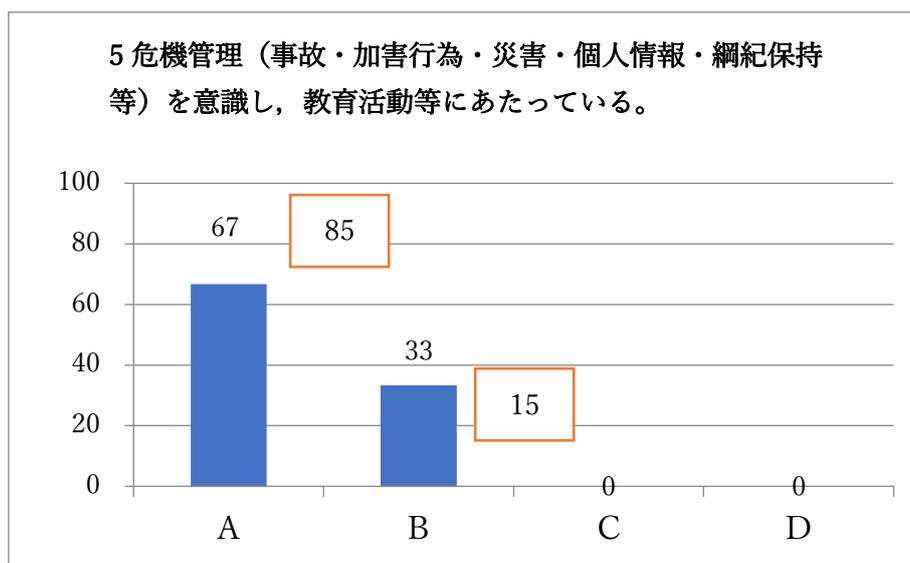
昨年度に比べ A 評価が少なくなっているものの、肯定的な考えが多い。連絡調整の部分に課題が残るので、終礼や職員会議などの機会を大切にし、共通理解を図りながら教育活動を進めていきたい。

4 学校評価・一校一実践・人事評価制度・校内研・各種研修を通し、自分を磨き専門性を高めようとしている。



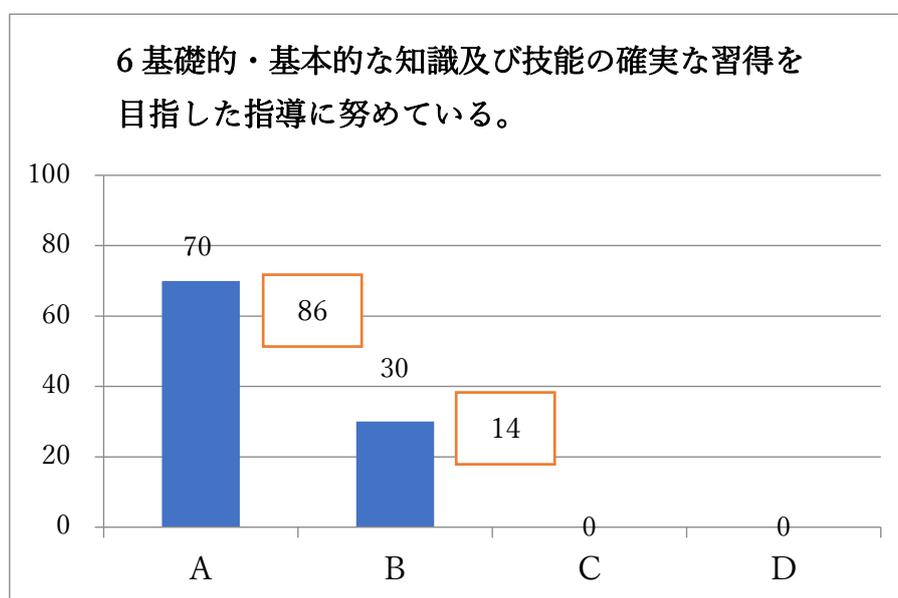
校内研をはじめ、各種研修については、それぞれの専門性を大切にしながら、職員が積極的に取り組んでいる。校内における OJT にも具体的に取り組んでいる姿がよく見られるので、今後も続けていきたいことの一つである。

- 5 危機管理（事故・加害行為・災害・個人情報・綱紀保持等）を意識し，教育活動等にあたっている。



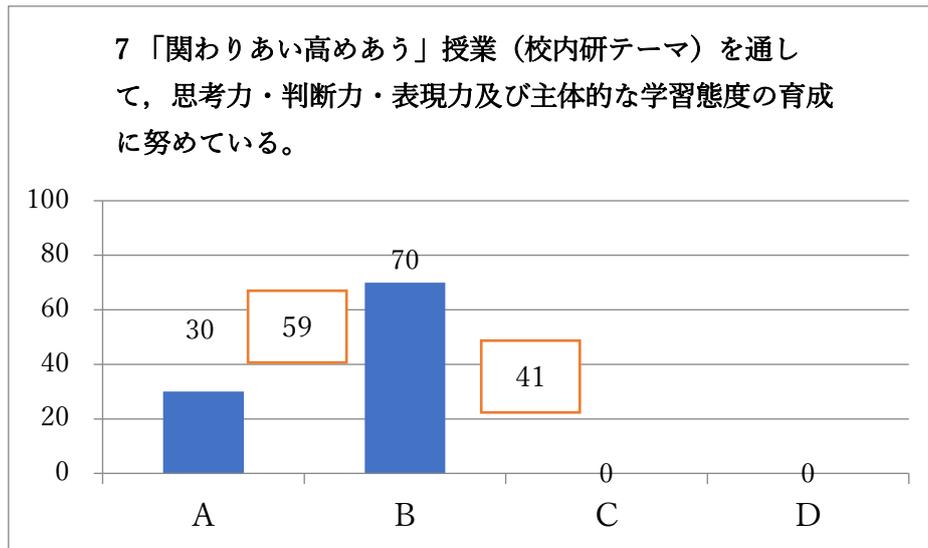
危機管理については，災害等も含め様々な内容が予想される。常に情報交換をしっかり行い，対応を意識しながら教育活動を行っていきたい。昨年度に比べて A 評価が下がっている点については，職員の自己評価の判断レベルの相違と考えられるが，A 評価が増えていくよう，2 学期以降も声かけを進めていきたい。

- 6 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を目指した指導に努めている。



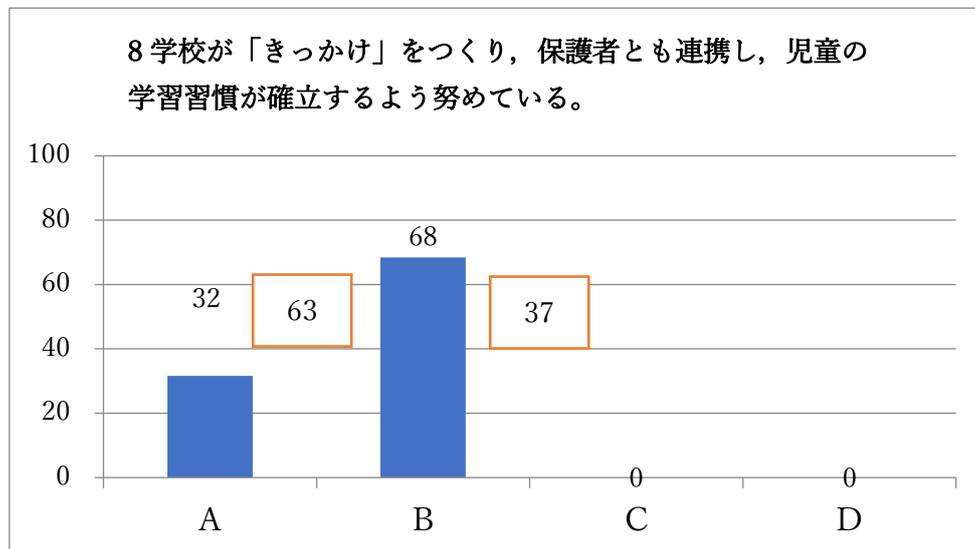
この項目についても，肯定的な意見のみであり，職員が基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して授業改善を図っていることがわかる。すべての教育活動の原点であるので，子どもたちの基礎的・基本的な部分を大切に授業づくりを今後も進めていきたい。

- 7 「関わりあい高めあう」授業（校内研テーマ）を通して、思考力・判断力・表現力及び主体的な学習態度の育成に努めている。



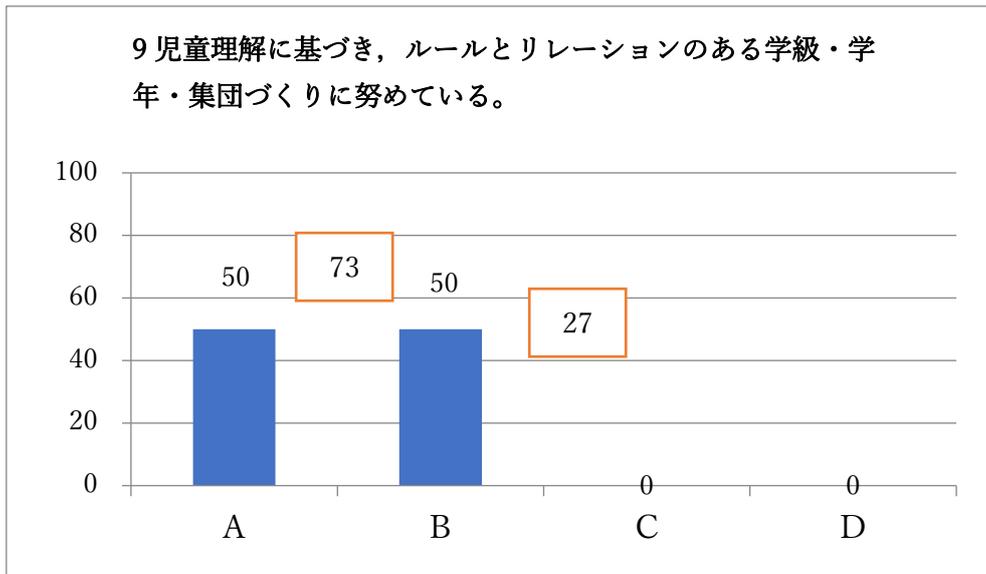
前の項目と同様、校内研究等を通して、すべての職員が「関わり高め合う」授業づくりを進めている。今年度はICTの活用も重点項目になっているので、ICTを効果的に活用した授業づくりも求められる。職員全体の共通理解のもと今後授業改善を進めていきたい。

- 8 学校が「きっかけ」をつくり、保護者とも連携し、児童の学習習慣が確立するよう努めている。



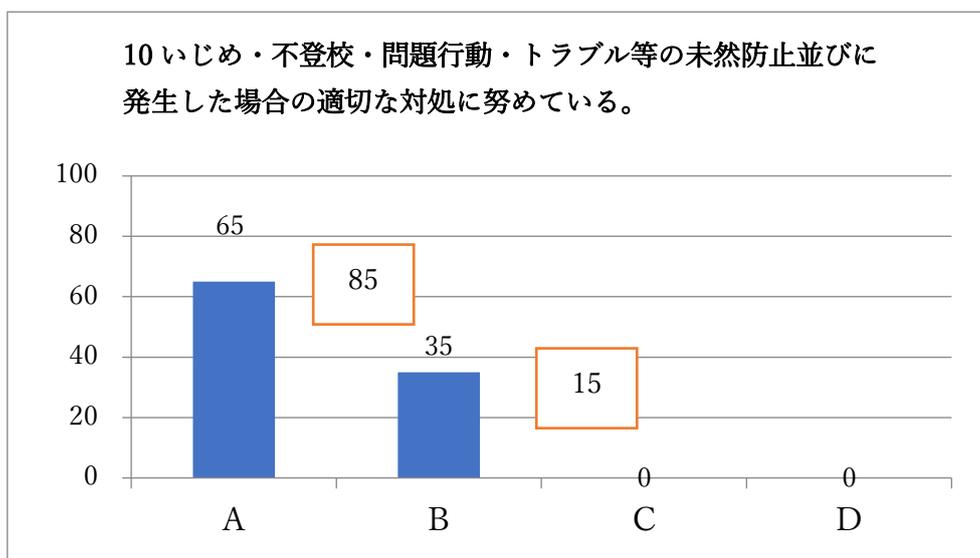
宿題等については、各担任が計画的にかつバランスよく考えながら取組を進めている。また、特に今年度は夏季休業中を含め、クロムブックの持ち帰りも進めており、ICTを活用した家庭学習もできるようになってきている。今後は学習習慣が確実に身につくよう家庭での様子も把握しながら、家庭学習の在り方を考えていきたい。

9 児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学年・集団づくりに努めている。



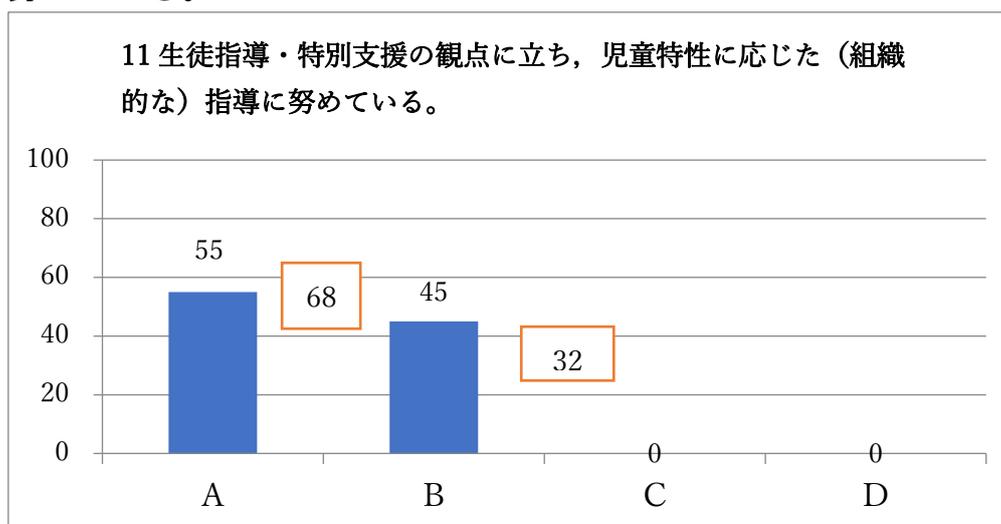
どのクラスにおいても、職員が児童の様子をよく把握し、アンケート等の結果も踏まえながら学級・学年集団づくりを進めている。特に朝の活動で行っている「スリンプルプログラム」は、児童のリレーションづくりに役立っていると考えがえる。ルールについては、折に触れて確認する必要があるので、職員としても共通理解を図りたい。

10 いじめ・不登校・問題行動・トラブル等の未然防止並びに発生した場合の適切な対処に努めている。



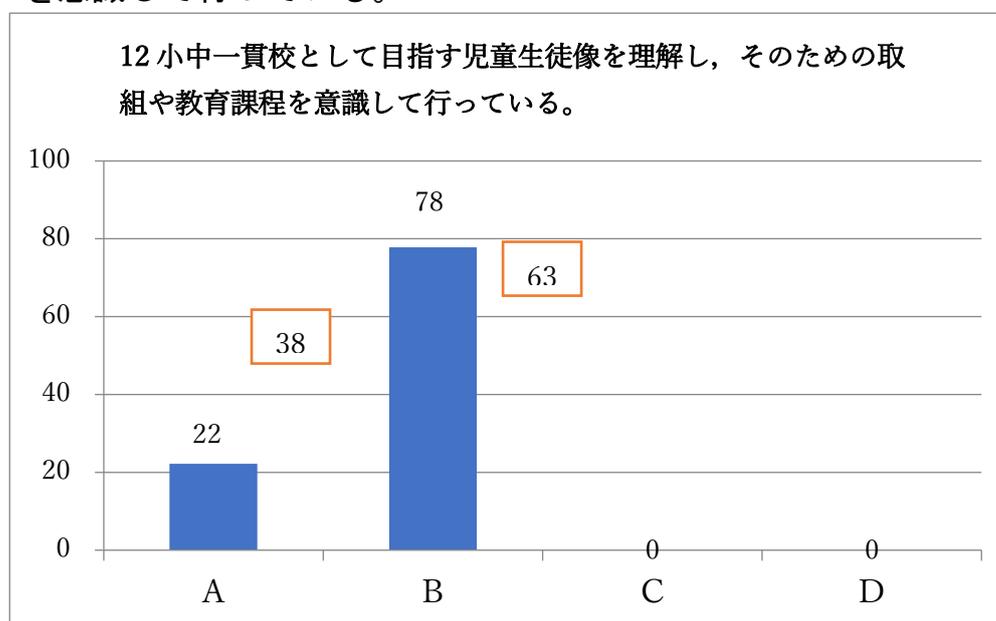
昨年度同様、肯定的な考えのみであった。いじめ・不登校・問題行動などへの適切な対処については、アンケート等の活用も含め、児童の実態把握を基に各担任が丁寧に取組んできている。今後も情報交換を密にしながら、一人一人の児童の様子を把握すると共に、共通理解を図って全校体制で取組んでいきたい。

1 1 生徒指導・特別支援の観点に立ち、児童特性に応じた（組織的な）指導に努めている。



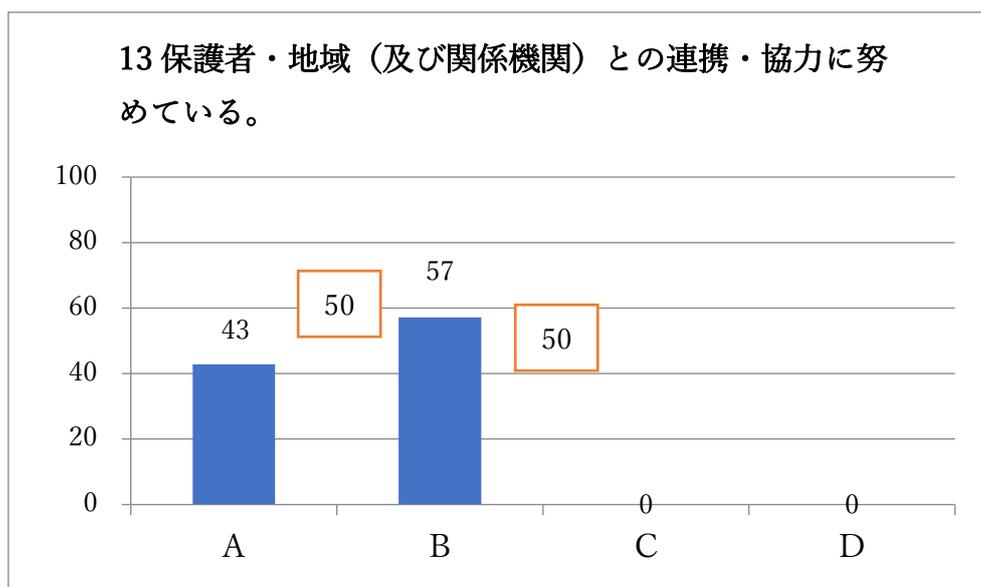
今年度も肯定的な捉え方をしている職員が多い。特別な支援を必要とする児童だけでなく、すべての児童の特性を考えながら、丁寧に指導に当たっているので、児童の多くが安心して学習活動を進めることができていると考える。また、それぞれのクラスや学年において、気になる児童については毎月の職員会議等で情報交換を行い、共通理解を図っている。今後もこのような取組を大切に、職員全員で組織的に関わる雰囲気醸成していきたい。

1 2 小中一貫校として目指す児童生徒像を理解し、そのための取組や教育課程を意識して行っている。



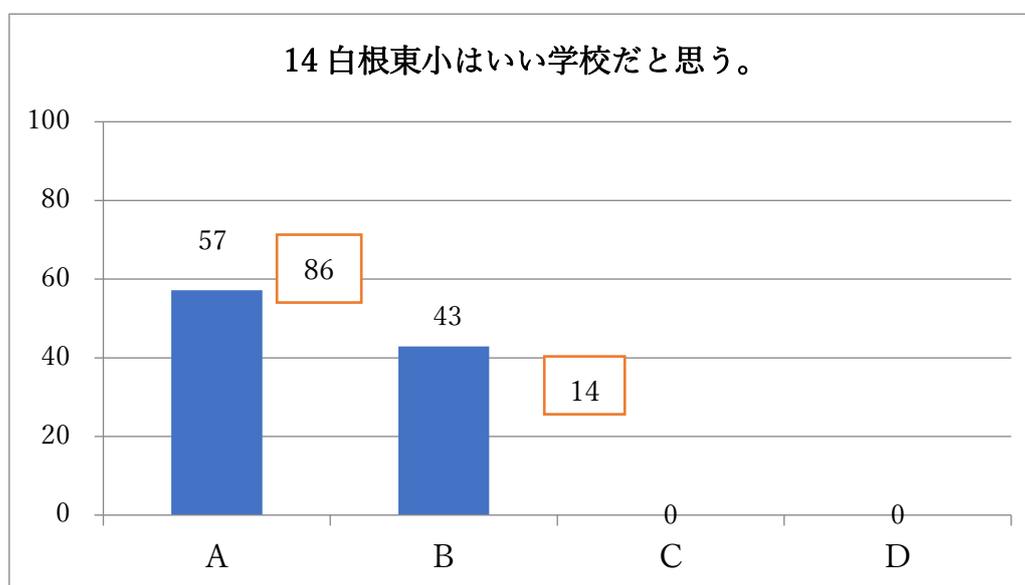
本年度は、昨年度からの延長として小中一貫教育研究会を行い、白根飯野小学校、白根巨摩中学校との合同研究を進めている。その研究途中であるため、B評価が多くなったと考えられる。あいさつ運動など取組んだ内容もあるので、成果と課題を明確にしながら教育活動を進めていく必要がある。

13 保護者・地域（及び関係機関）との連携・協力を努めている。



保護者・地域（及び関係機関）との連携・協力については、職員の多くが丁寧に関わっている。朝の登校時には、多く皆さんに協力を得る中で、児童の様子を見守っていただいている。また各学年・各学級で発行している学級・学年の通信で児童の様子を発信し、家庭との連携を進めている。また、校長による学校だよりの配付、教務主任を中心したHPの更新も進めており、学校の様子を地域に発信している。2学期は、運動会をはじめ地域の協力が必要となる行事も多いので、地域・保護者と連携して、行事への取組を進めていきたい。

14 白根東小はいい学校だと思う。

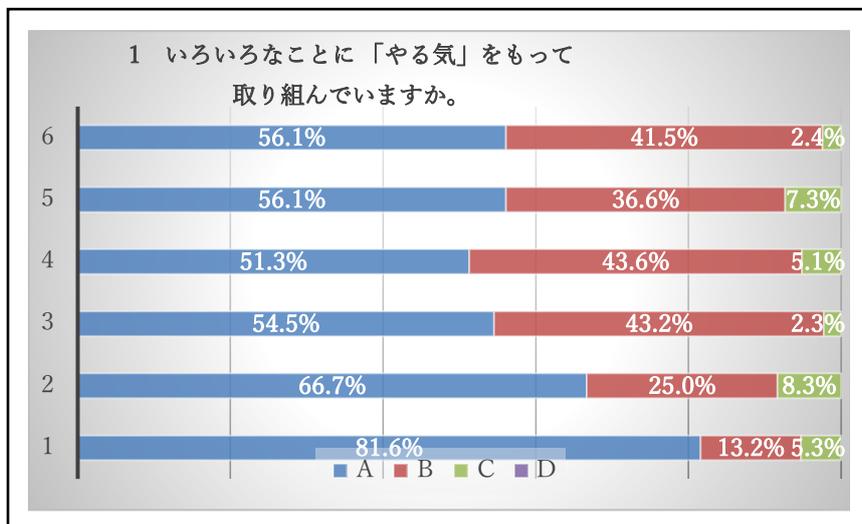


昨年度に続いて肯定的な考えが多かった。児童の様子、職員の様子など全てが関わる内容であるので、学校評価のバロメーターと考えてもよい。A評価がさらに増えるよう、全職員で学校をつくっていく気持ちを大切にしながら、2学期以降の教育活動に臨みたい。

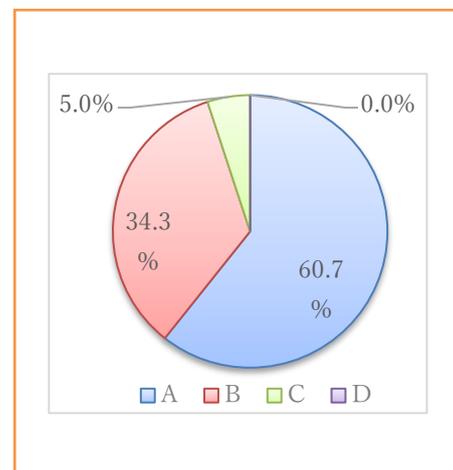
【児童アンケートより】

1 いろいろなことに「やる気」をもって取り組んでいますか？

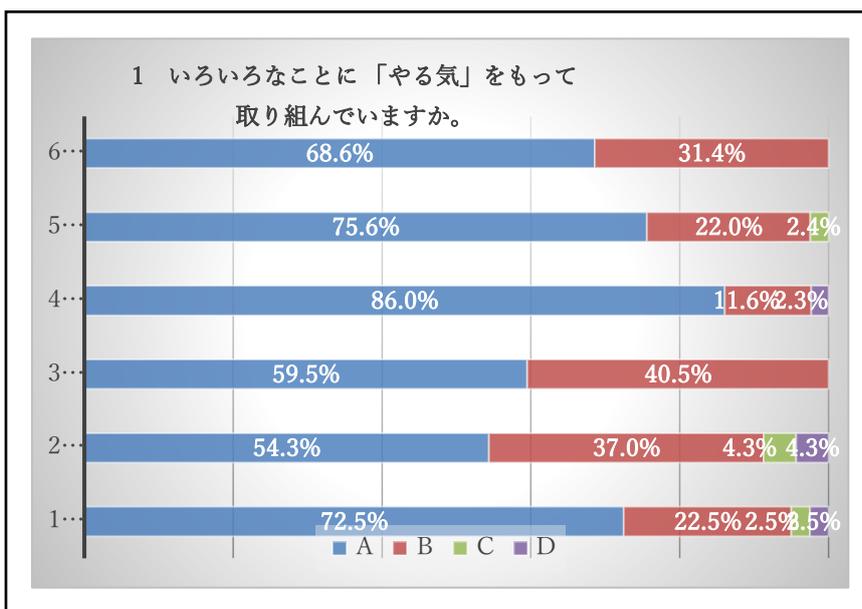
<R6年度>



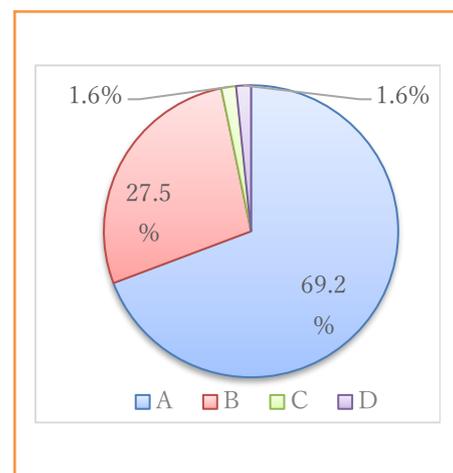
<全校>



<R5年度>



<全校>

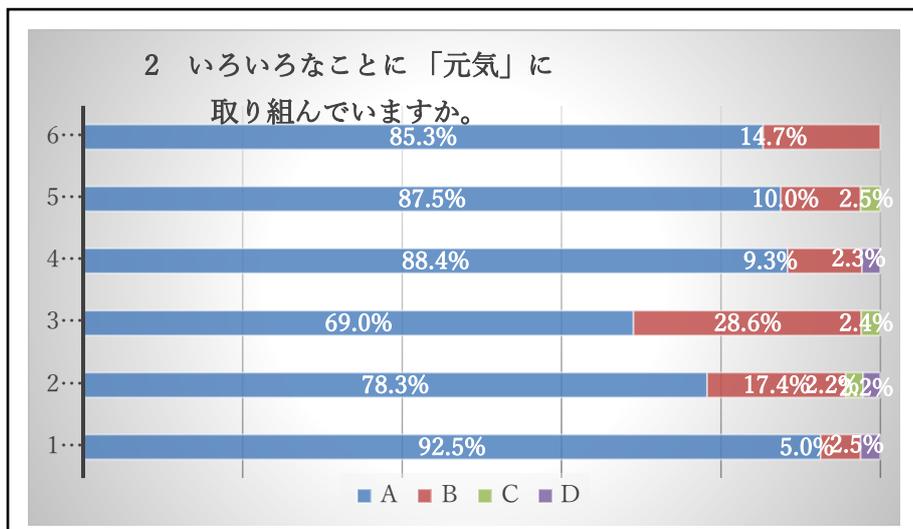


全体的に、90%以上の児童が「やる気」をもっていろいろなことに取り組んでいることがわかる。Aを選んだ児童は昨年度より少ないが、Dの「まったく思わない」と答える児童については、今年度はゼロであった。普段からの各担任および職員の声掛けをはじめ、児童会本部を中心とした取組の成果が出ていると考える。

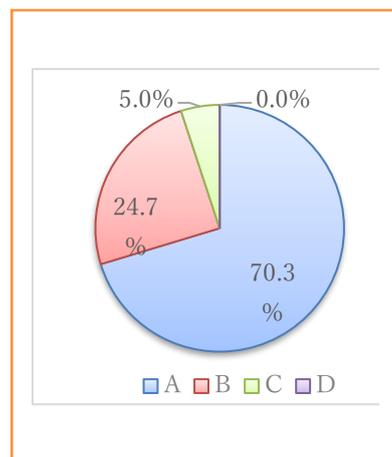
今後の課題としては、「あまり思わない」と考えている児童がまだいるので、やる気をもって取り組む雰囲気を作る必要があると考える。また、授業をはじめさまざまな教育活動を行う上で、児童のやる気や興味関心を高める工夫も引き続き考えていく必要がある。

2 いろいろなことに「元気」に取り組んでいますか？

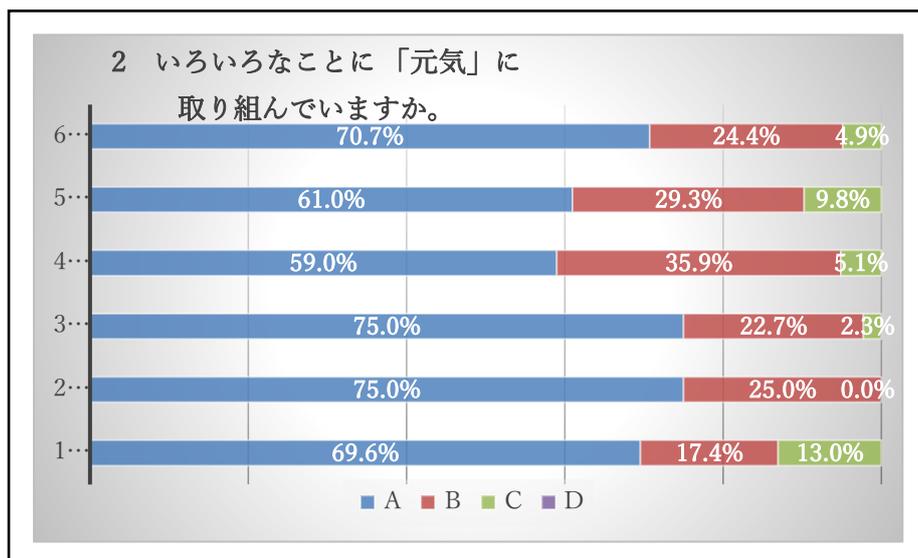
<R6年度>



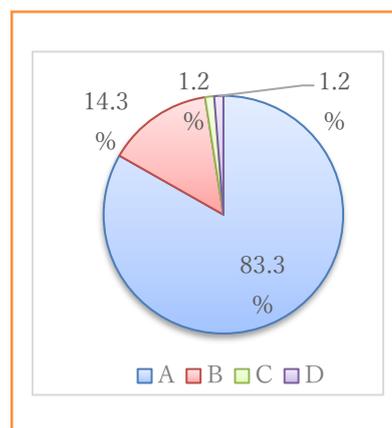
<全 校>



<R5年度>



<全 校>

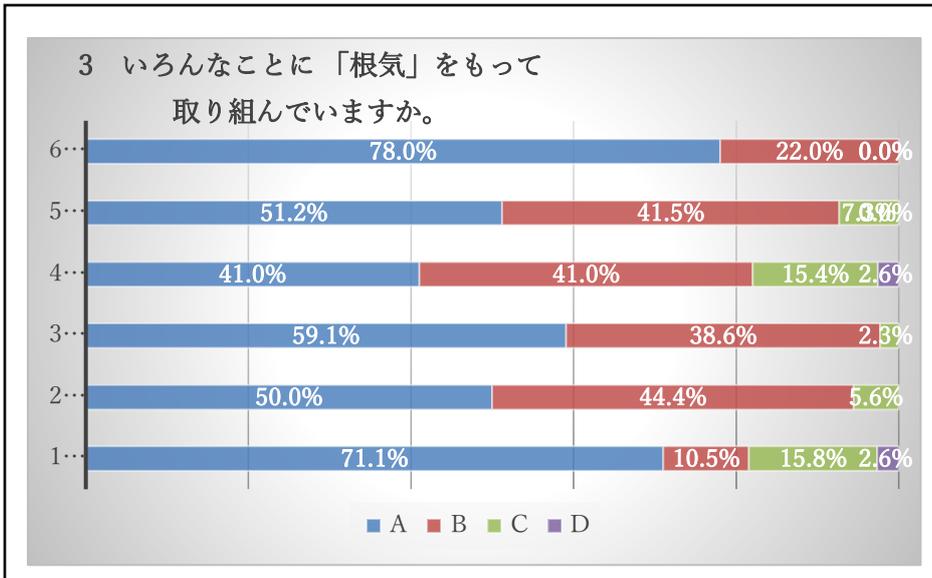


「元気」に取り組むという項目についても、肯定的な考えをもっている児童が多い。また、R5年度と比べるとどの学年でもAの回答が増えてきている。児童会を中心に呼びかけを進めた成果が出ていると考える。

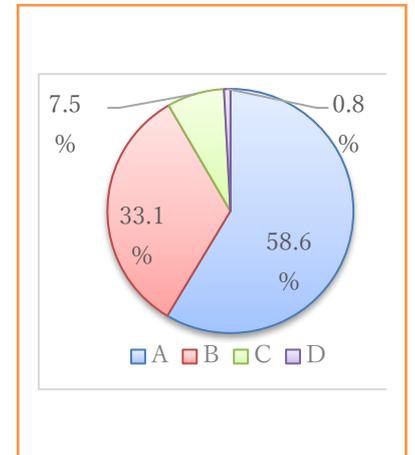
「元気」については、心身ともに健康であることが大きく影響するので、体力づくりも含めた今後の取組も大事になってくる。2学期は、運動会をはじめ児童が中心となる大きな行事が多くあるので、それらの行事に元気に取り組んでいけるよう、内容や方法を検討していくことが大切になると考える。

3 いろいろなことに「根気」をもって取り組んでいますか？

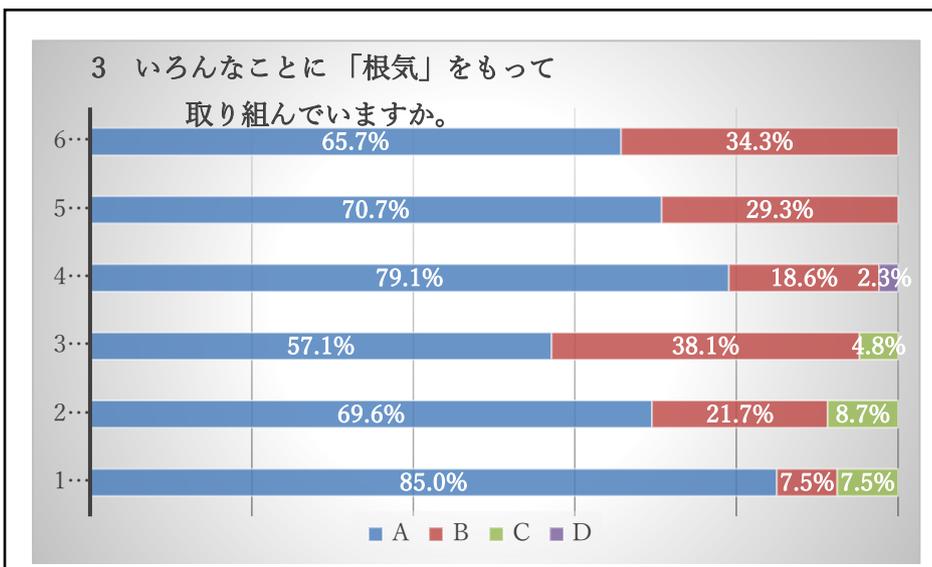
<R6年度>



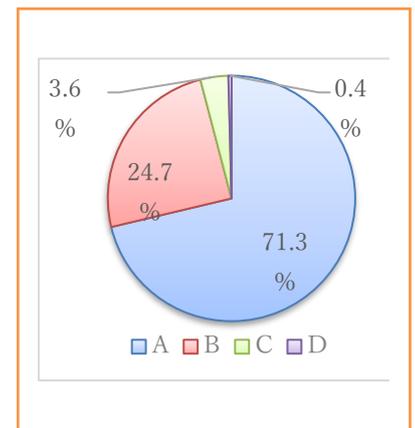
<全 校>



<R5年度>



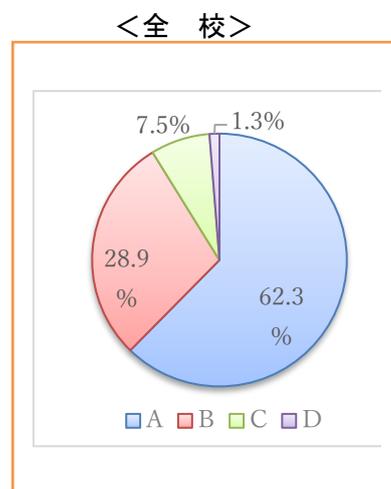
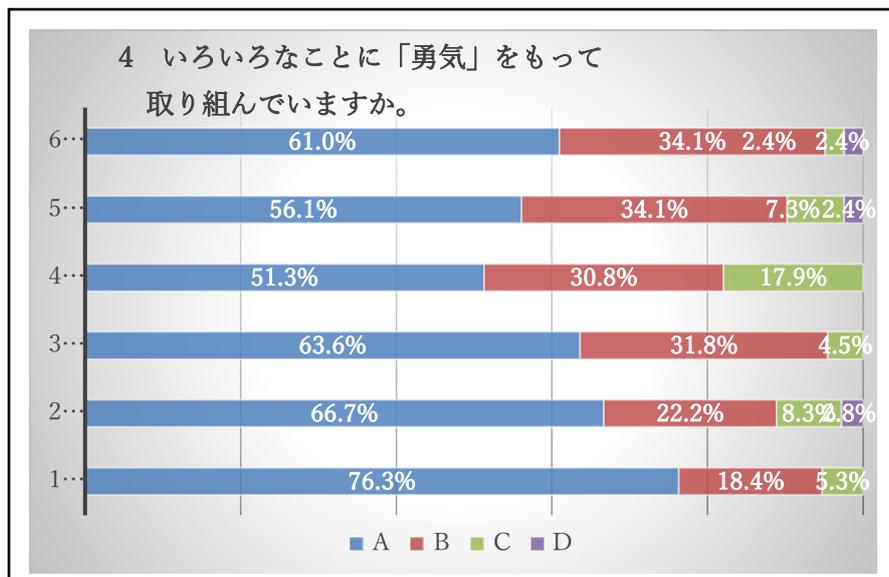
<全 校>



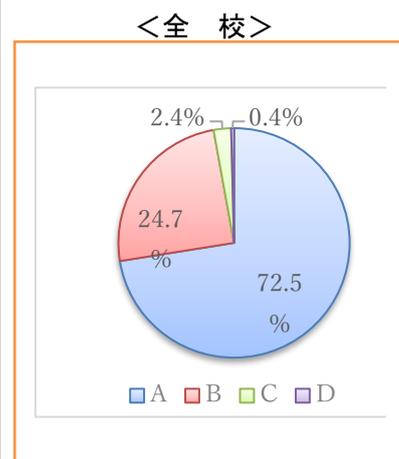
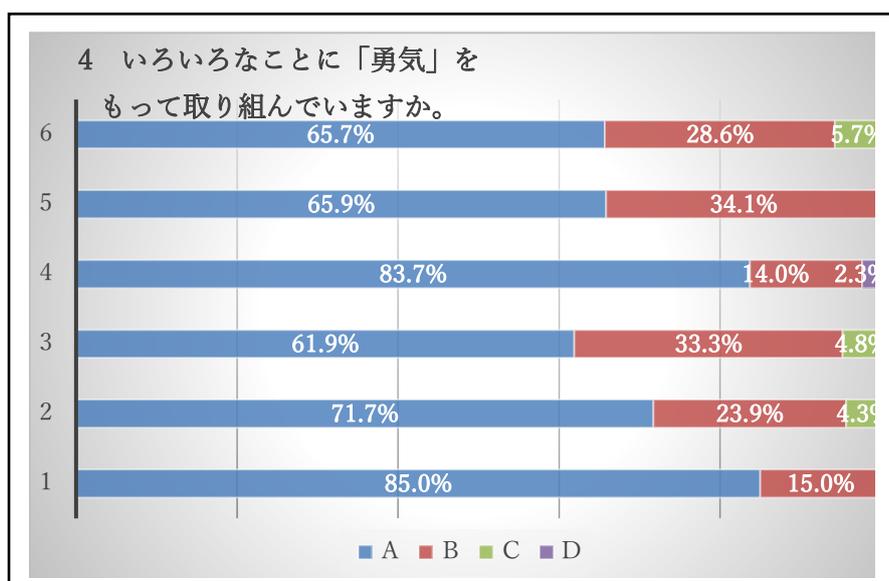
「根気」、粘り強くものごとに取り組む態度や姿勢は、今の子どもたちに最も不足している力の一つだと考える。この項目を見ると、全体的には肯定的な考えではあるが、他の項目と比べるとC、Dと回答している児童も多くみられる。昨年度と比較しても、肯定的な考えが少ない状況であるのがわかる。しかし、児童の様子を見ると、集会活動などで最後まで集中して話をきいたり、掃除の時間に集中して無言清掃行っている姿も見られるので、それらの活動を基に、粘り強く取り組むことの大切さを伝えていきたい。また、授業での活動でもしっかりと丁寧に問題を読み、情報をうまく活用しながら粘り強く取り組む態度を培っていきたい。

4 いろいろなことに「勇気」をもって取り組んでいますか？

<R6年度>



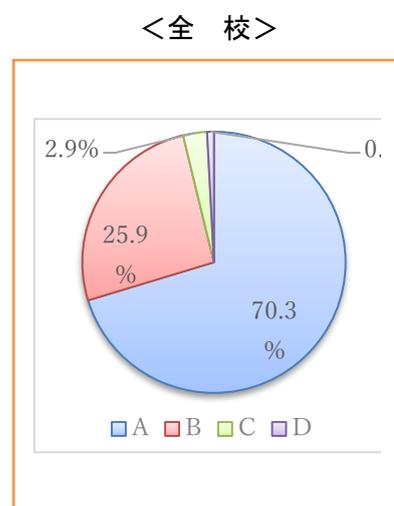
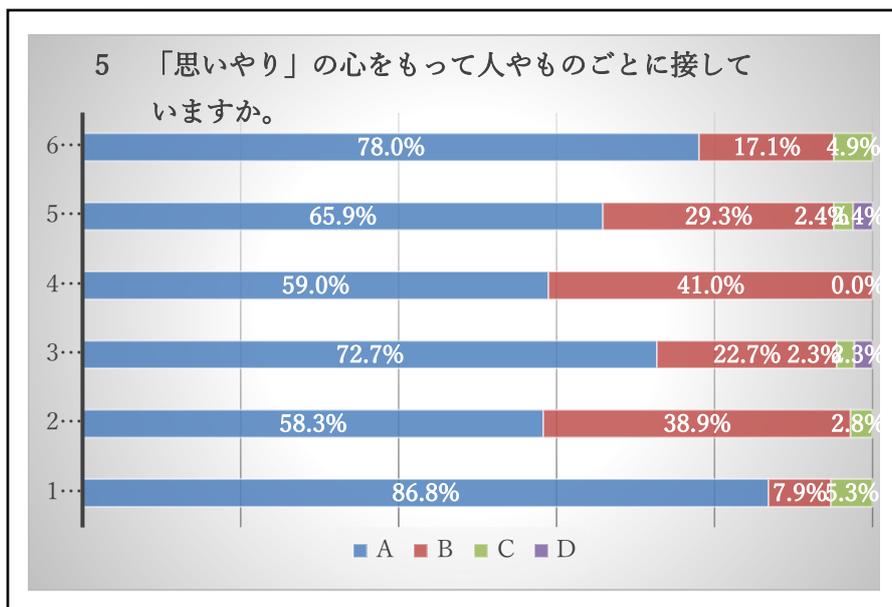
<R5年度>



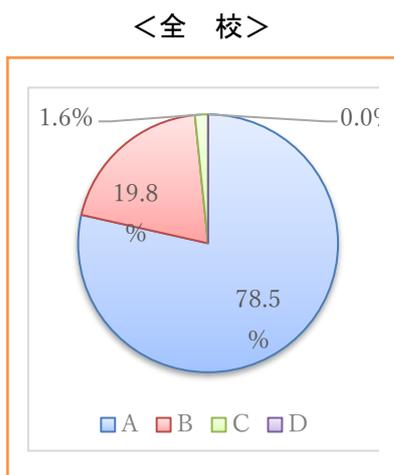
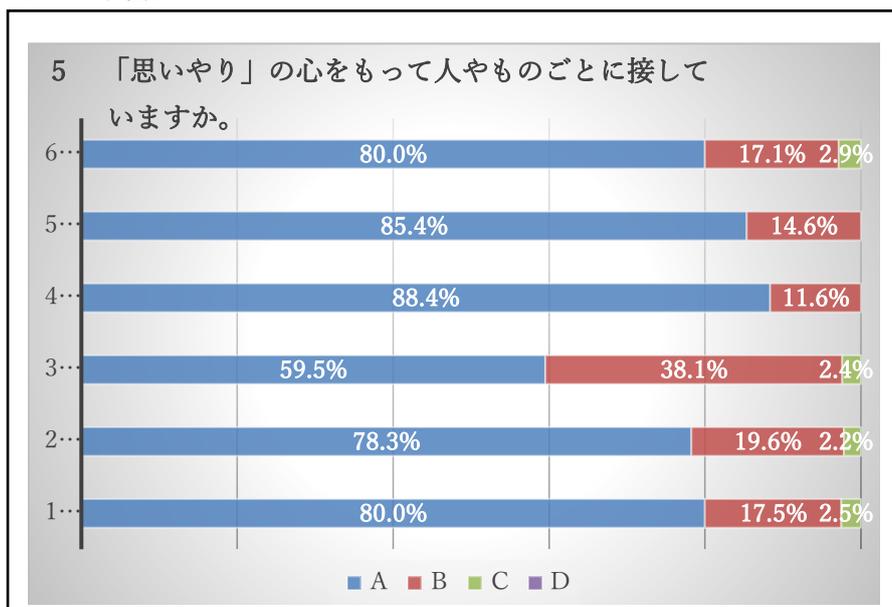
この項目についても、肯定的な考えの児童がどの学年も90%近くであり、多くの児童が「勇気」ということを意識して取り組んでいることがわかる。ただ、まだC、Dと回答している児童も多いので、積極的に行動できるように声掛けを進めていきたい。また、2学期は「運動会」「音楽発表会」など、児童が新しいことにチャレンジできる良い機会がたくさんあるので、まだ体験したことのない活動にも勇気をもって挑戦するよう、各学年の取組を進めていくとよい。

5 いろいろなことに「思いやりの心」をもって人やものごとに接していますか？

<R6年度>



<R5年度>

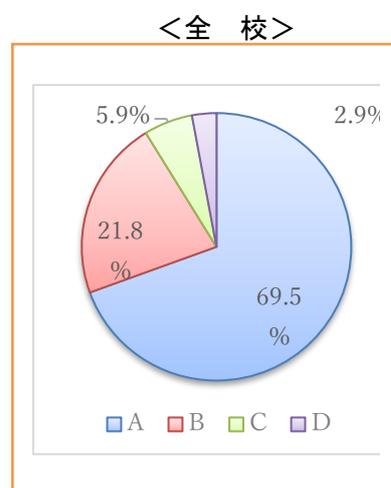
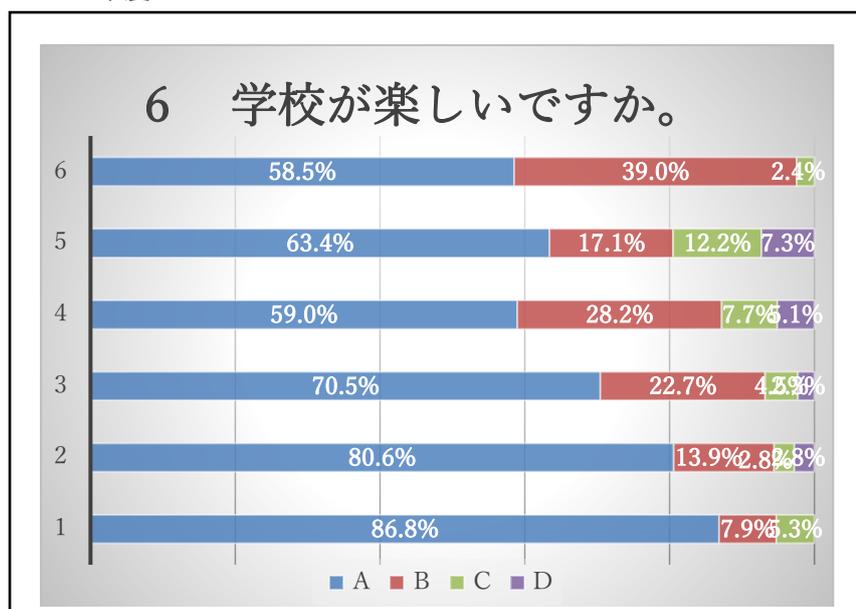


この項目については、どの学年も94%以上の児童が肯定的な回答を示している。昨年度も非常に良い結果となっていて、本校児童が「思いやり」をもって人と接していることがわかる。日常生活の中でも、クラスの友達同士だけでなく学年、下級生、上級生など年齢の枠を超えて、優しい言葉かけができる場所は、本校児童のよいところだと考える。

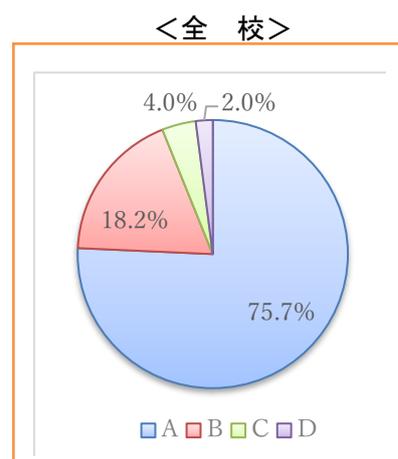
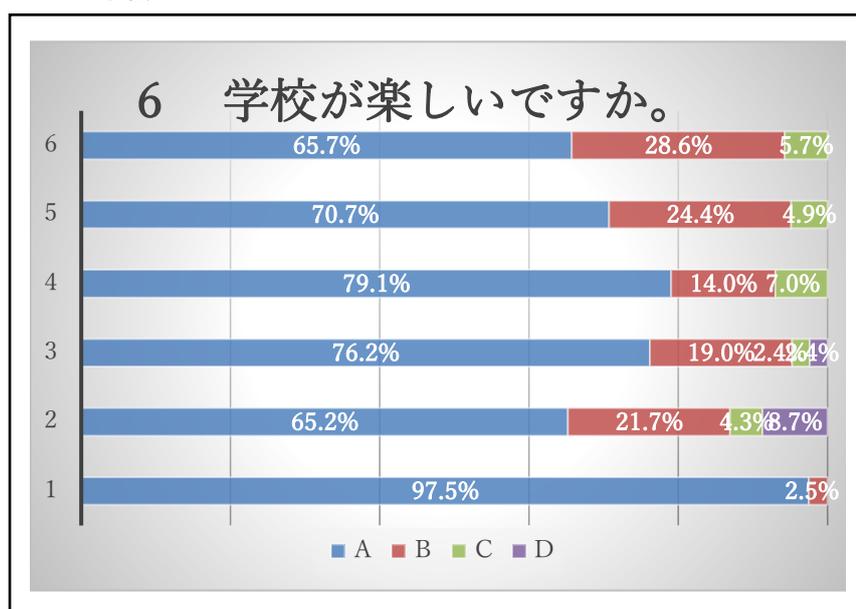
運動会の取組など、2学期は縦割り班を活用した活動が多くあるので、異学年で取り組む時間を大切にしていきたい。

6 学校が楽しいですか？

<R6年度>



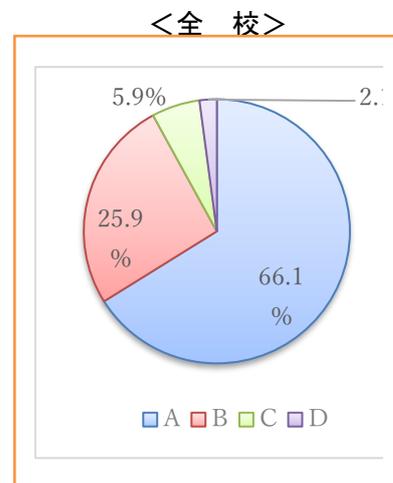
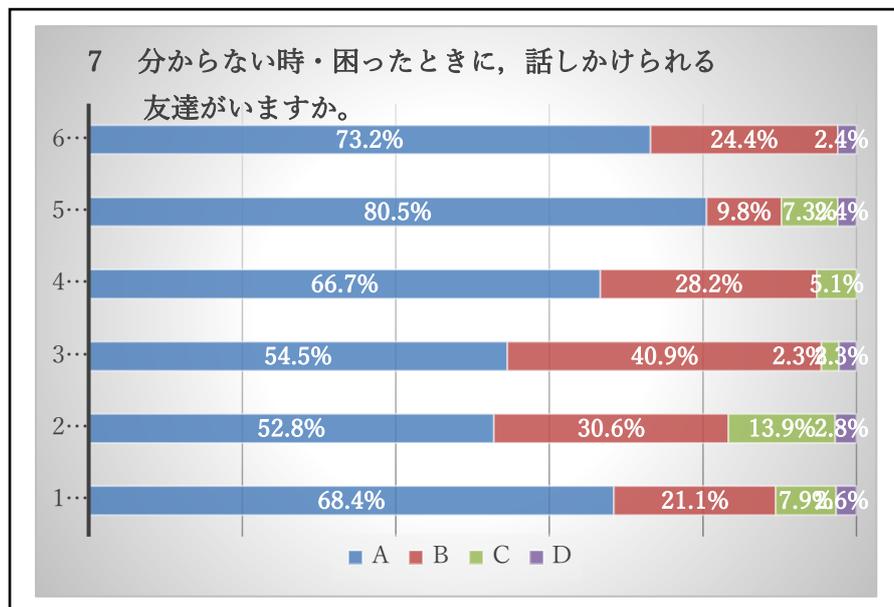
<R5年度>



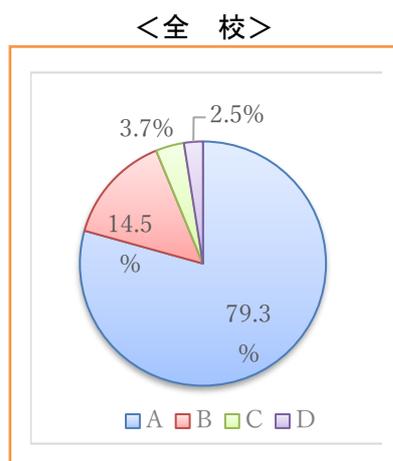
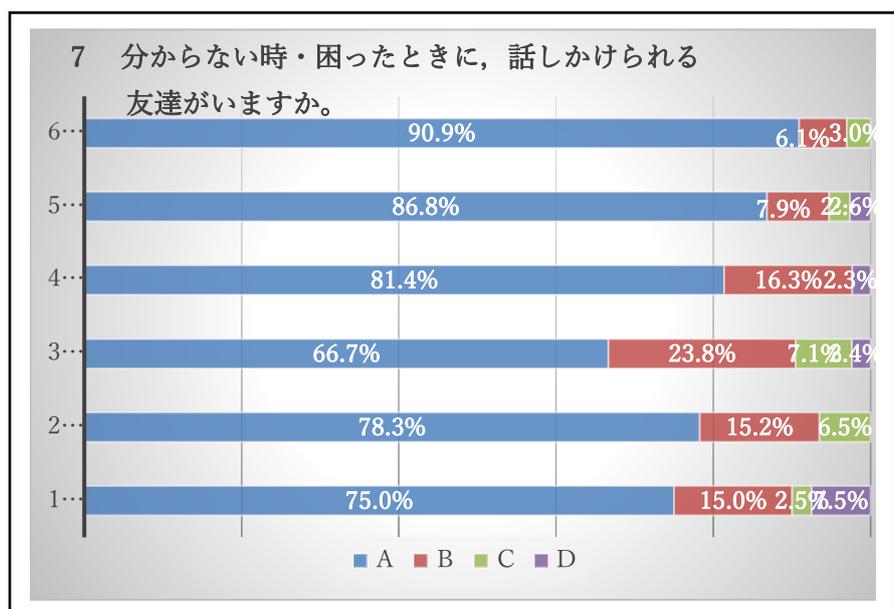
「学校が楽しい」と答える児童がどの学年においても80%を超えている。毎日楽しく生活している児童が多いことがわかる。一方、C・Dと答えている児童も各学年に見られる。今後は、そうした児童への対応を考えていく必要がある。具体的には、本アンケートをはじめQ-Uなどの調査を基に、聞き取りを進めたり、日頃から積極的に児童に声をかけ、児童が相談しやすい雰囲気をつくったりしていくことが大事になってくる。

7 分からないとき・困ったときに、話しかけられる友達がありますか？

<R6年度>



<R5年度>

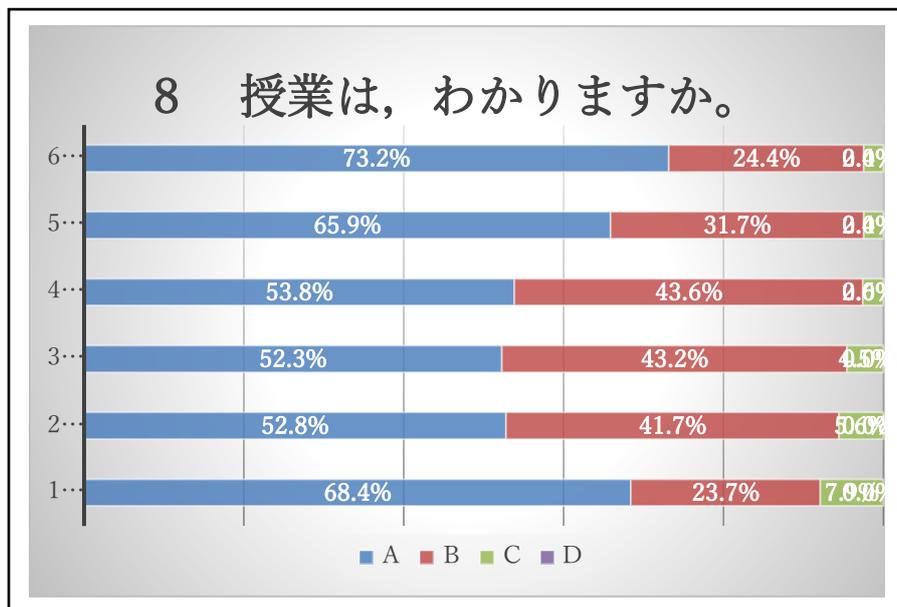


どの学年も90%以上の児童が、肯定的にとらえている。グラフの形状から言っても、その割合は高学年の方が多くなっており、これは発達段階に応じた内容であると考えられる。それは高学年になるにつれて、本当に仲のよい友達ができることに他ならない。

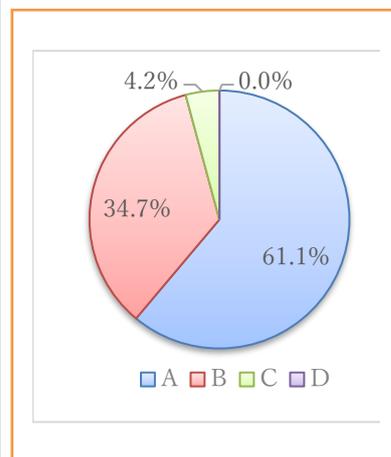
低学年を中心にC・Dと答えた児童がまだいるので、まずは良好な友達関係が築けるよう学級づくり等を意識しながら取り組んでいく必要がある。また、朝の活動などで行っている「スリンプルプログラム」を活用し、友達との対話の機会を大切にしていきたい。

8 授業はわかりますか？

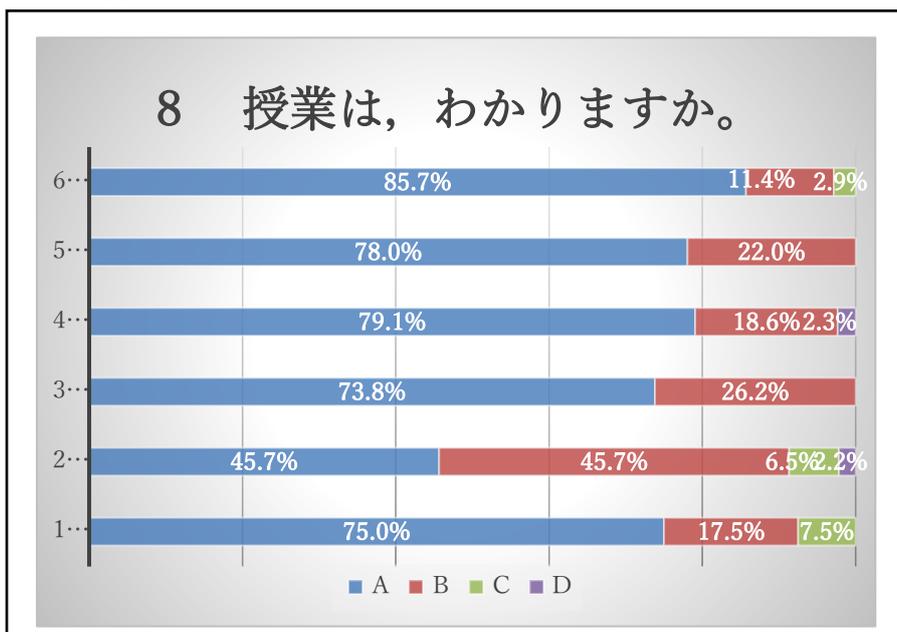
<R6年度>



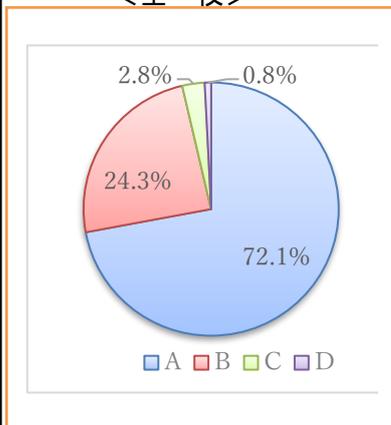
<全 校>



<R5年度>



<全 校>

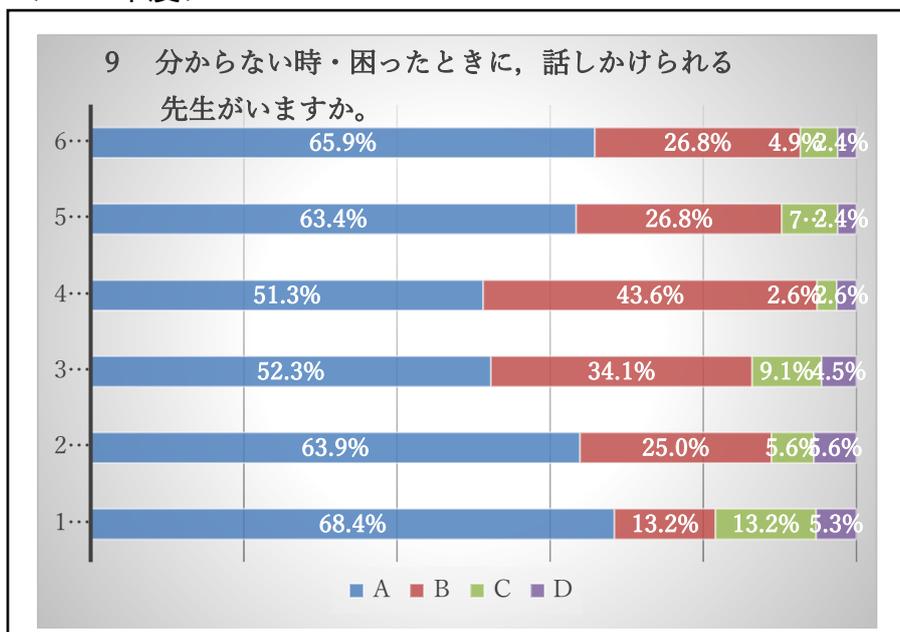


この項目は、本年度Dと回答した児童はゼロであった。また、どの学年も90%以上の児童が肯定的に答えている。このことは、日頃から校内研究をはじめとして、教材研究などわかりやすい授業を目指して日夜努力している職員のおかげだと考える。

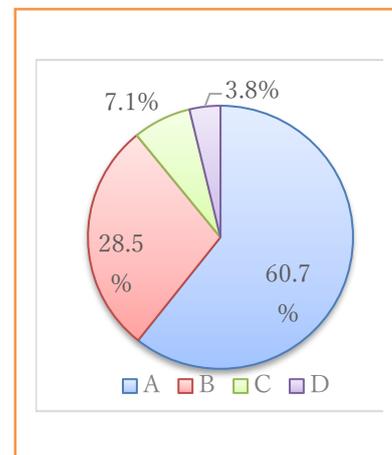
今後は、「わからない」と答えている児童にスポットを当て、わかるようになるための手立てを考えていく必要がある。

9 分からないとき・困ったときに話しかけられる先生がいますか？

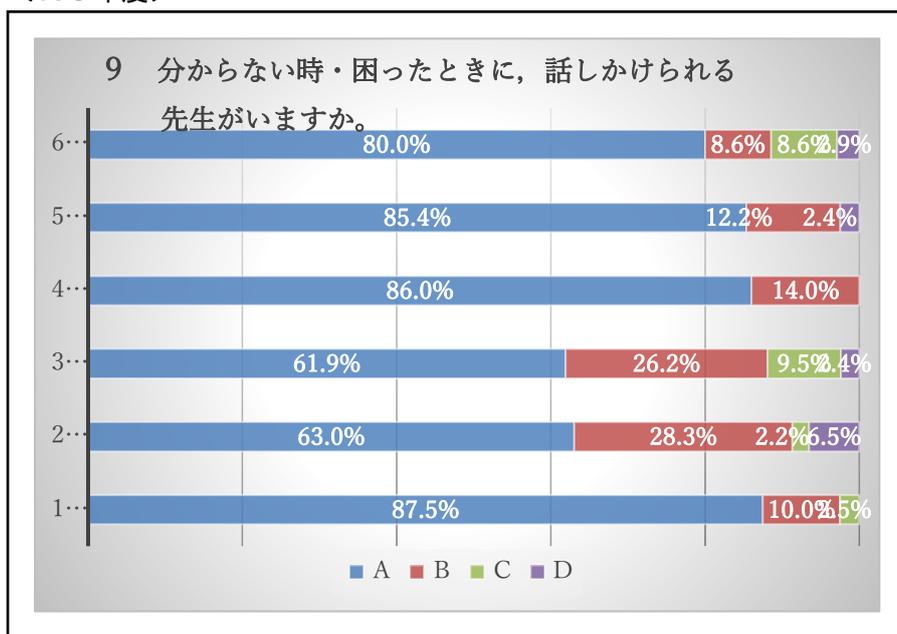
<R6年度>



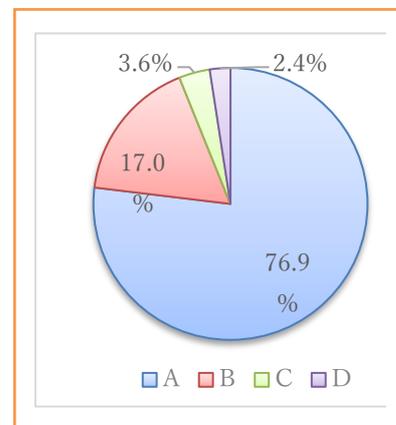
<全 校>



<R5年度>



<全 校>

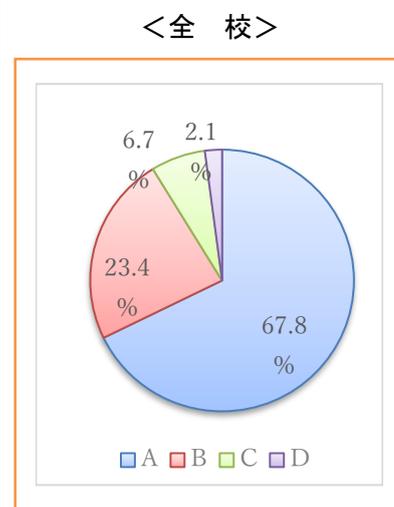
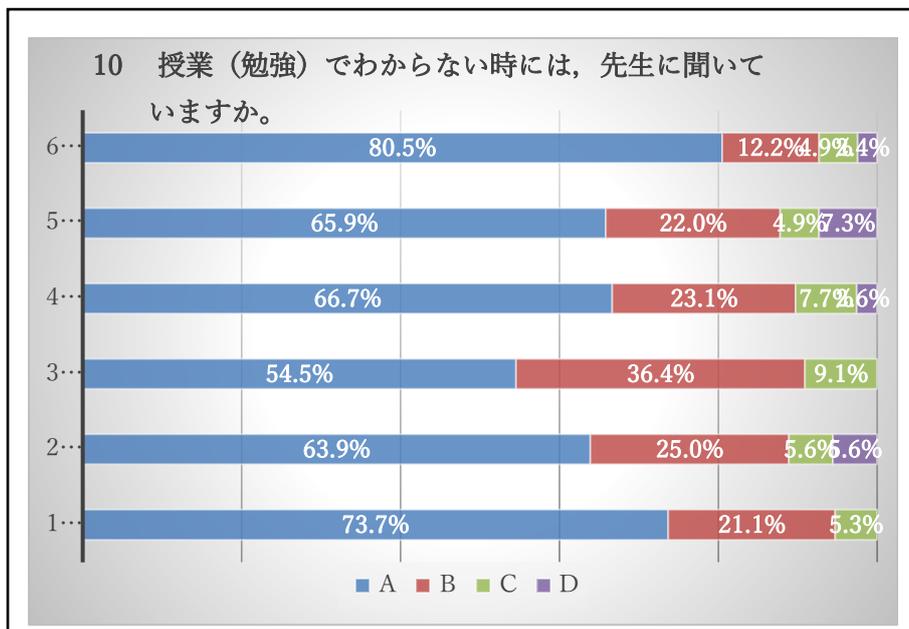


多くの学年の児童が80%以上肯定的な捉え方をしている。しかし、他の項目に比べてC・Dと回答している児童が多く、昨年度同様、困ったときに児童の声を聞き取る体制に課題が残る。

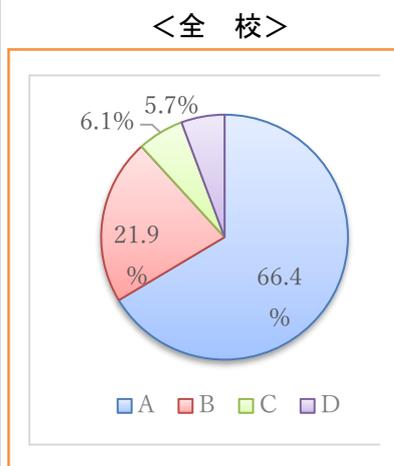
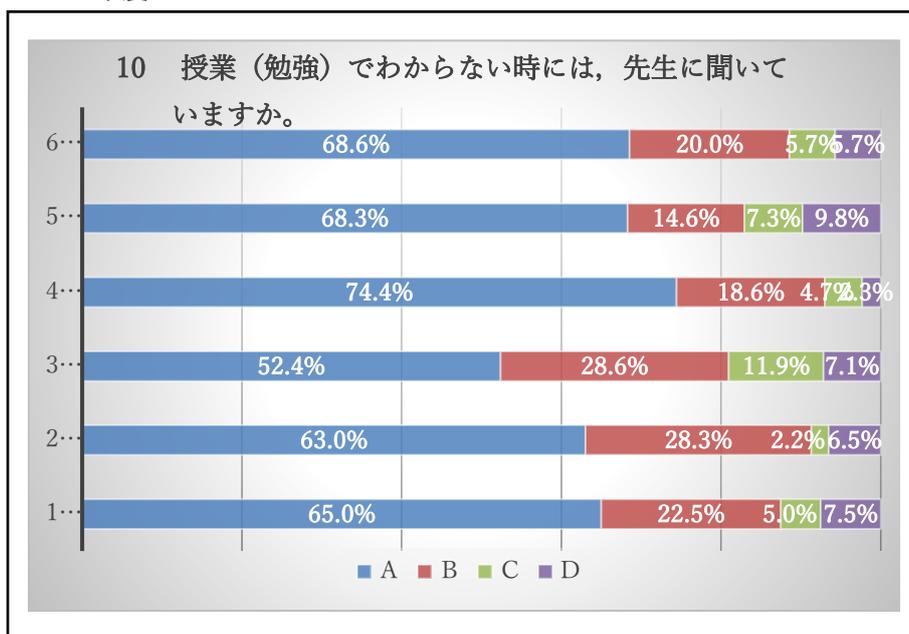
多くの職員が普段から児童の様子に気を配り、こまめに声をかけているので、今後も継続して声をかけていくと共に、困っている児童がいたら積極的に関わっていくことも必要になると考える。

10 授業（勉強）で分からないときには、先生にきいていますか？

<R6年度>



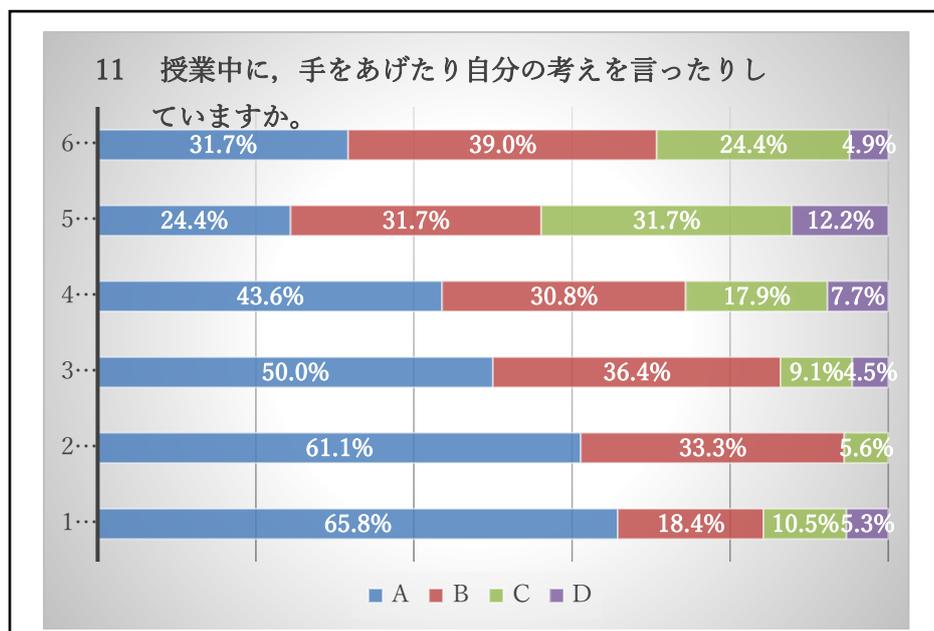
<R5年度>



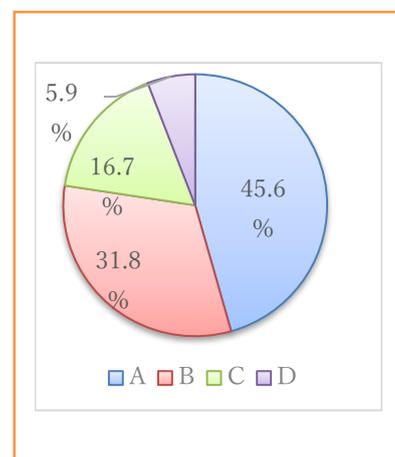
どの学年の児童も90%近くの児童が、肯定的に答えている。特に昨年度より、C・Dと答えた児童が少なく、授業における教職員への信頼の高さがうかがえる。これは、前述のとおり、担任をはじめとして多くの職員が進んでわかる授業づくりを行っている証拠であり、今後も取組をすすめていきたいと考える。

1 1 授業中に、手を挙げたり自分の考えを言ったりしていますか？

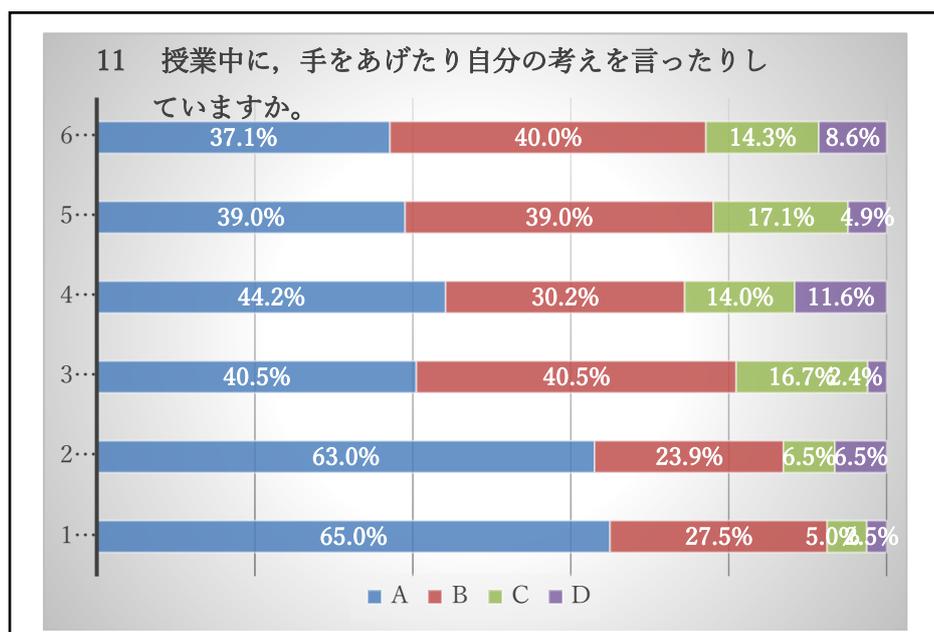
<R6年度>



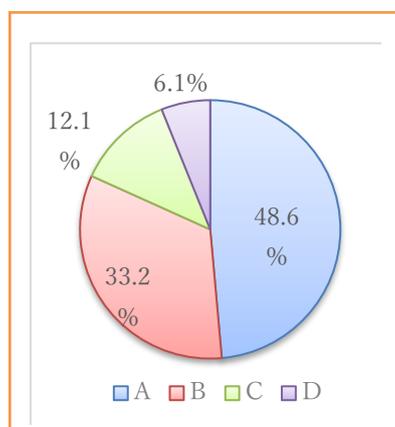
<全 校>



<R5年度>



<全 校>

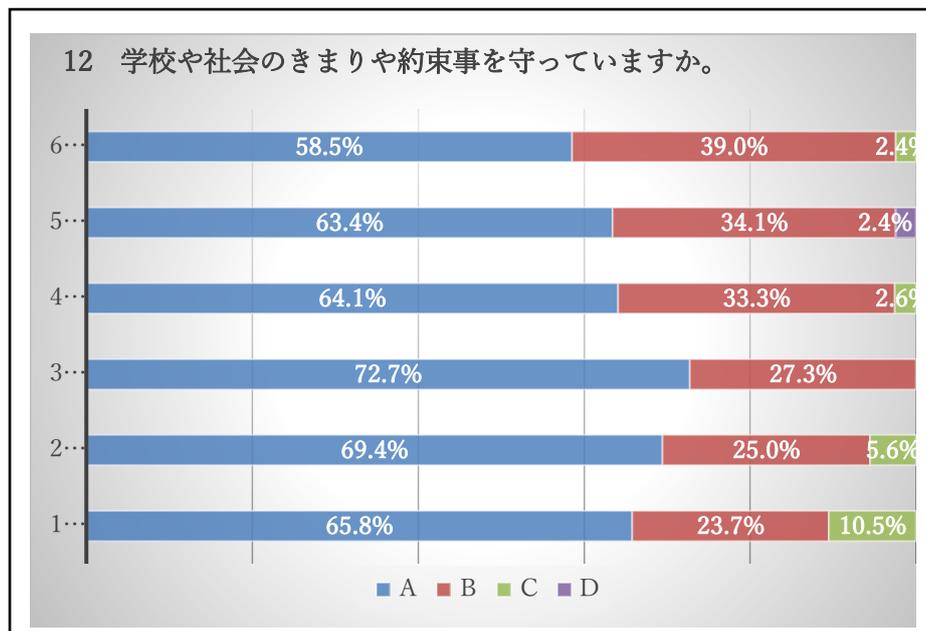


他の項目に比べ、比較的肯定的な回答が少ない項目である。C・Dと回答している児童も見られるので、今後は発言の仕方考える時間をとったり、自分の考えを整理する時間を確保したりすることで、児童の発表機会を増やしていく必要があると考える。

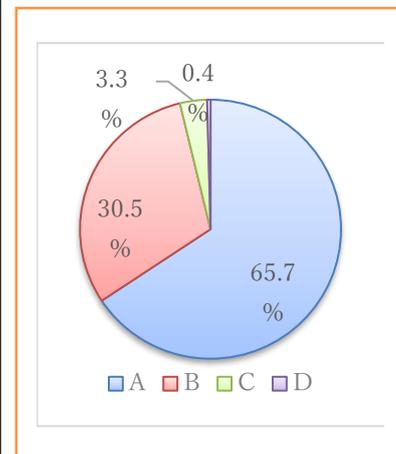
また、朝の活動で行っている「スリンプルプログラム」を活かして、自分の考えの発表をする方法を学ばせていきたい。

12 学校や社会のきまりや約束事を守っていますか？

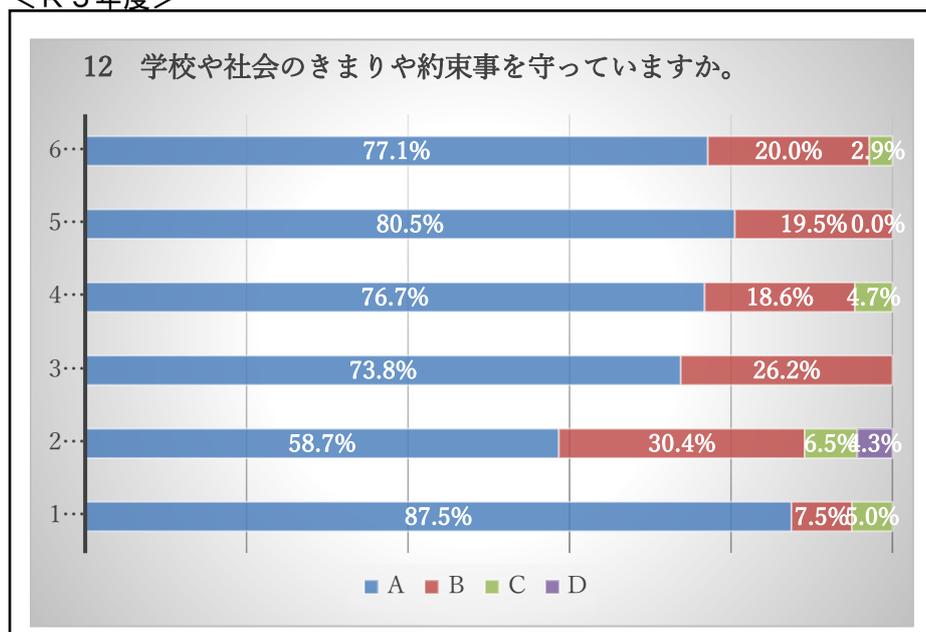
<R6年度>



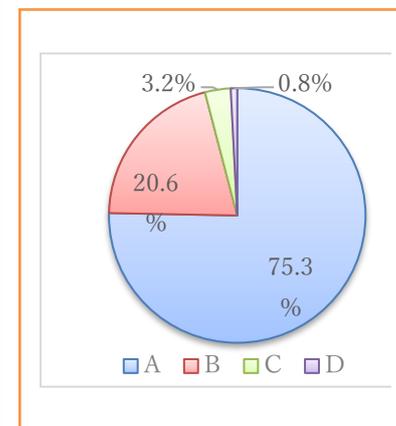
<全 校>



<R5年度>



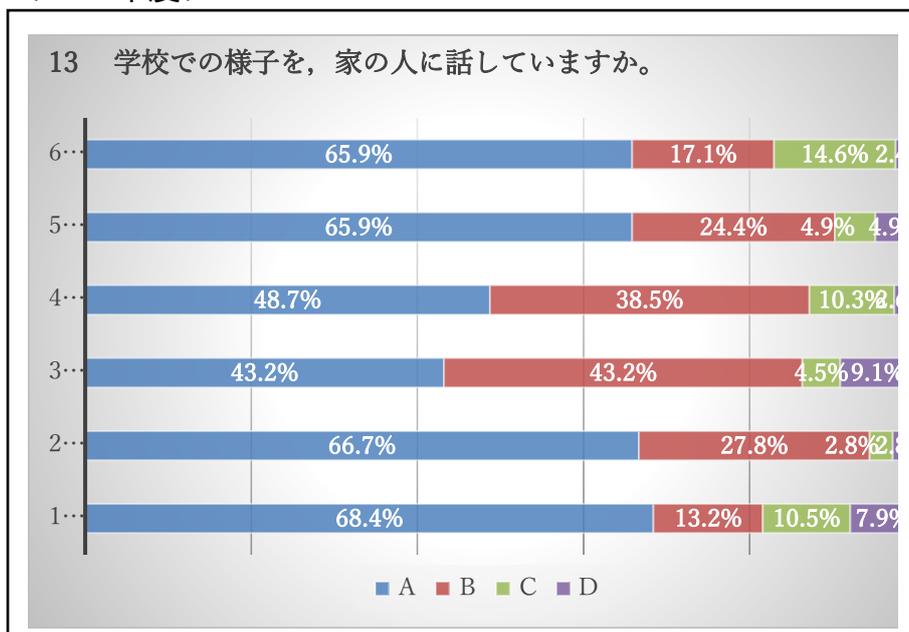
<全 校>



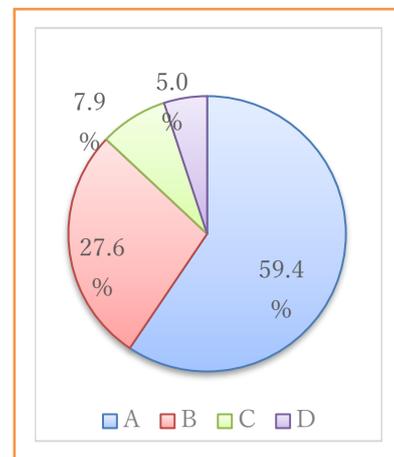
学校や社会のきまり，約束事については，どの学年の児童もきちんと守ろうとする気持ちが強いことがわかる。児童会の取組でも，学校のきまりに係る内容のものも多く，その取組の成果も現れている。C・Dと答えている児童もいるので，各クラスで児童と一緒に考える機会を大切にしていきたい。

13 学校での様子を、家の人に話していますか？

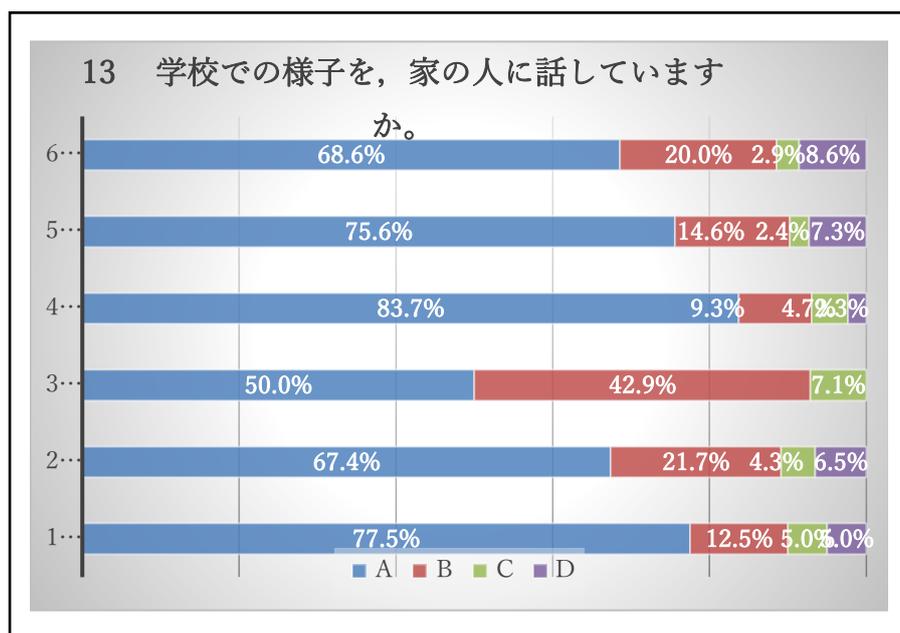
<R6年度>



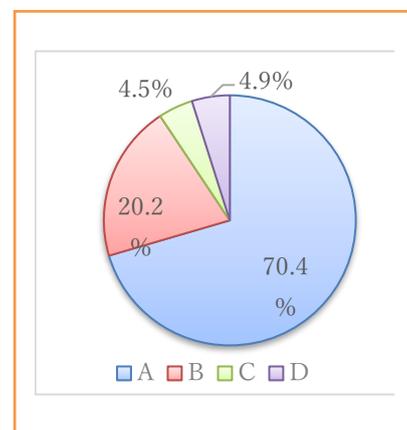
<全 校>



<R5年度>



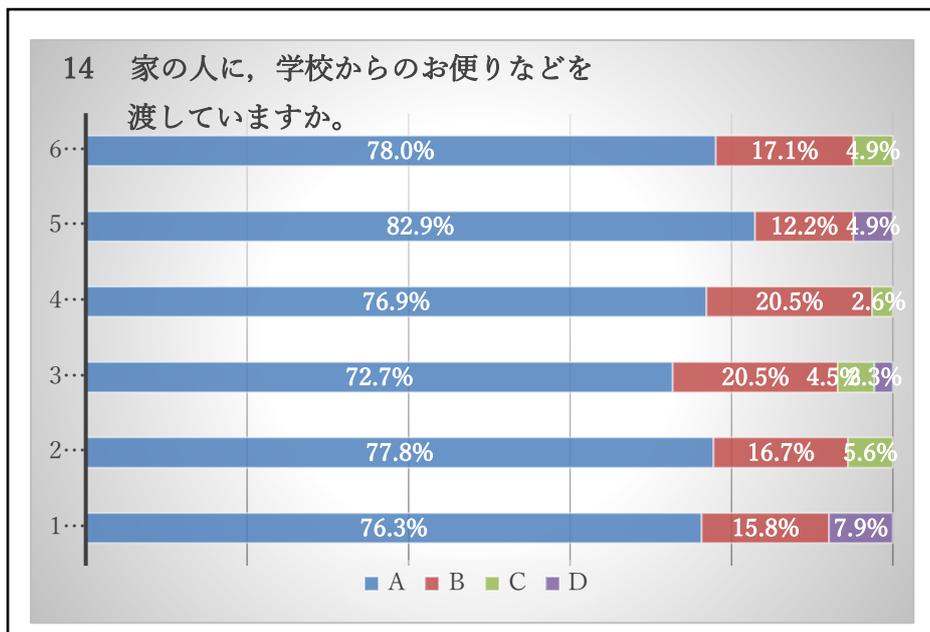
<全 校>



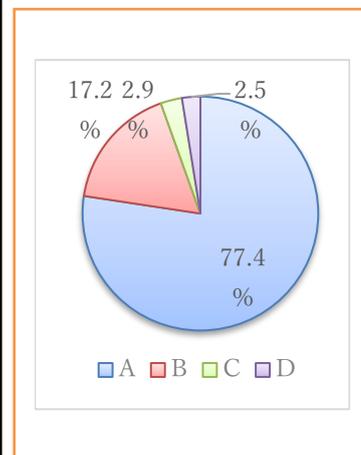
どの学年の児童も80%以上が肯定的な考えを示している。多くの児童が、家に帰って学校であった出来事について話をしていることがわかる。ただ、学年によってはC・Dと回答している児童も多くいるので、家庭と連携し児童との会話の時間を確保していくことが求められる。2学期は、読書週間もあり親子で一緒に話をする機会もとれるので、会話の機会としていきたい。

14 家の人に、学校からのお便りなどを渡していますか？

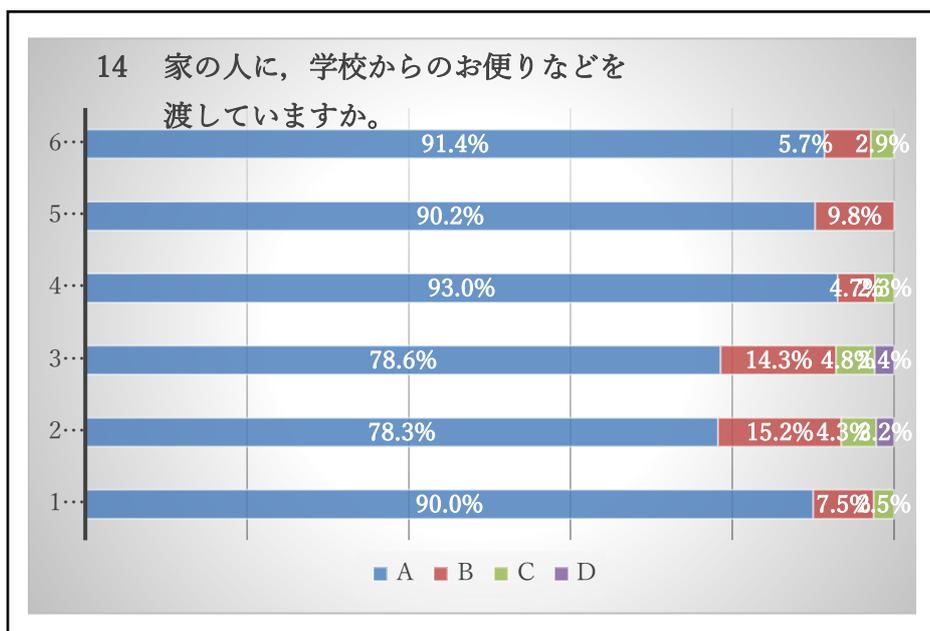
<R6年度>



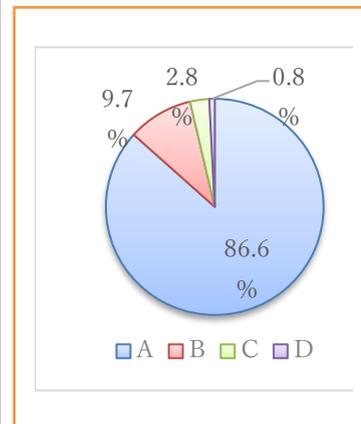
<全 校>



<R5年度>



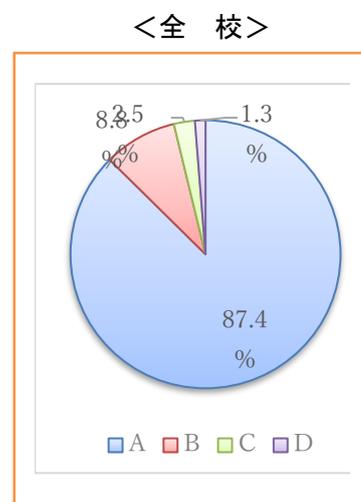
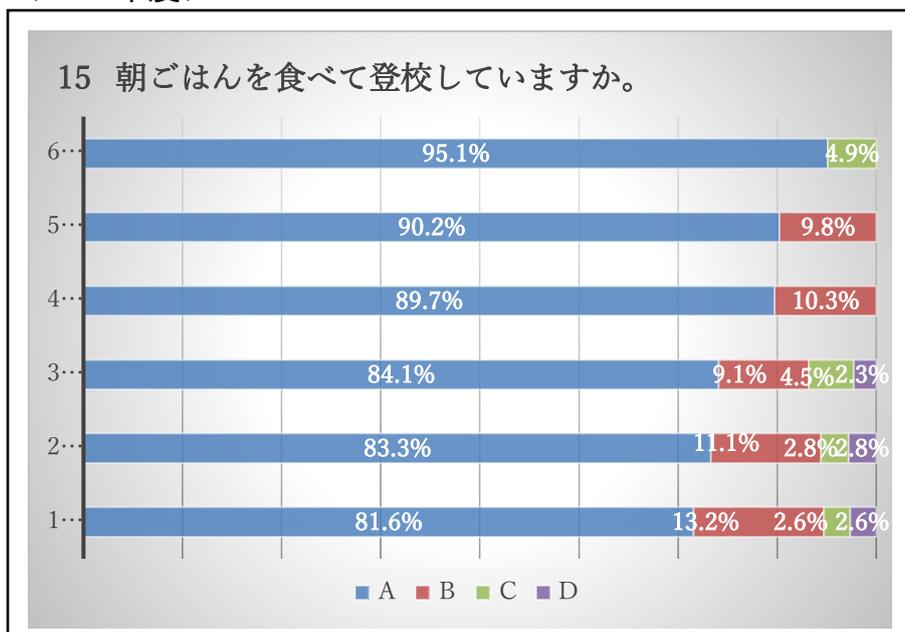
<全 校>



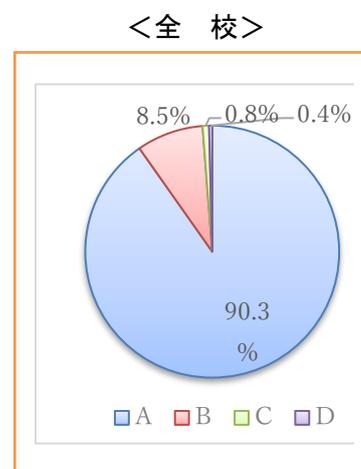
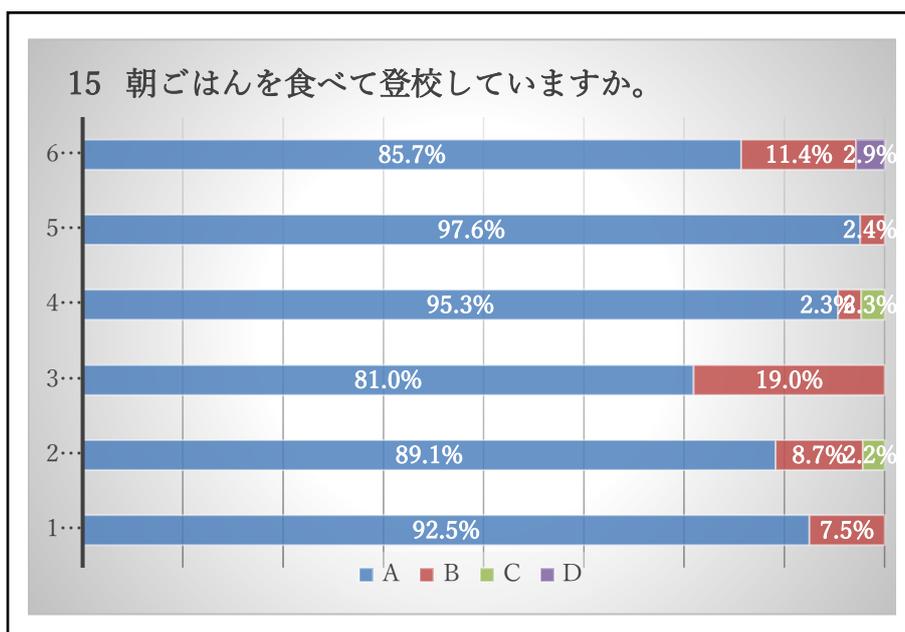
どの学年の児童も、90%以上が肯定的に答えている。児童が学校からの連絡事項をしっかり伝えようとしていることがわかる。ただ、学年によってはC・Dと答えている児童も見受けられる。学校からの便りは、重要な連絡事項もあるため、必ず家の人に渡すよう担任からの声掛けも続けていく必要がある。また、家庭からの協力も得る中で学校と家庭の連絡がスムーズに取れるようにしていきたい。

15 朝ごはんを食べて登校していますか？

<R6年度>



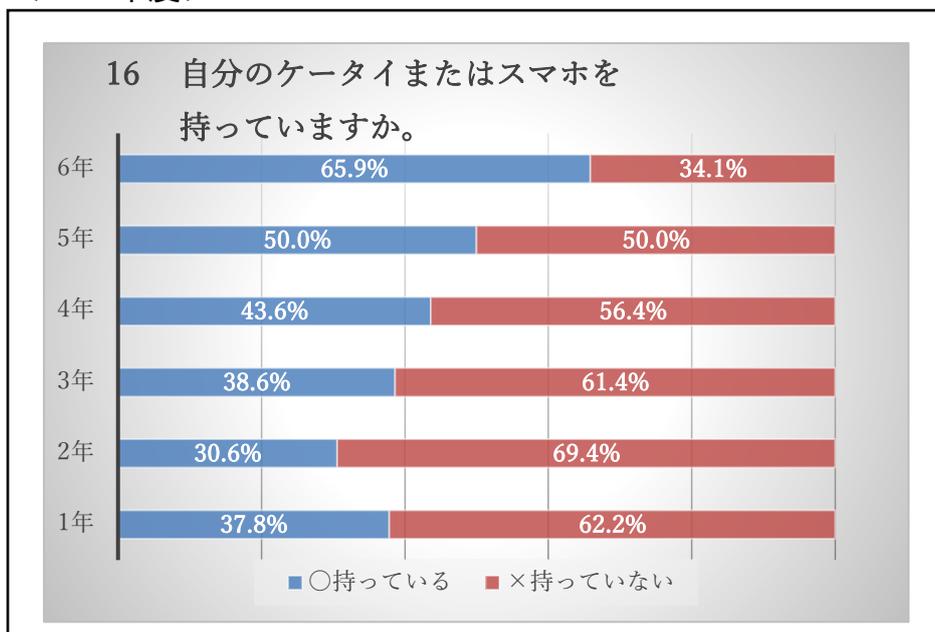
<R5年度>



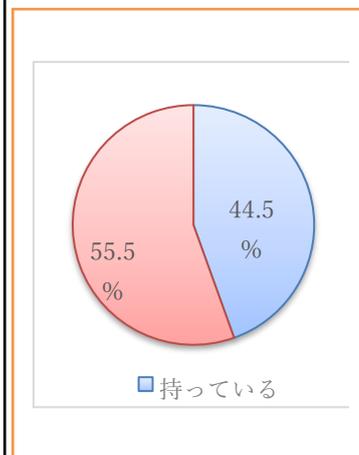
昨年度同様、この項目においてはどの学年も95%以上の児童が肯定的に答えている。朝ごはんを食べることは、時間的な余裕をつくらなければなかなかできないものでもある。各家庭で児童の健康をしっかり考えてくださっている証拠だと思う。今後も朝ごはんの大切さも含めて児童に伝えていくと共に、ご家庭の協力も得ながら取組を進めていきたいと考える。

16 自分のケータイまたはスマホを持っていますか？

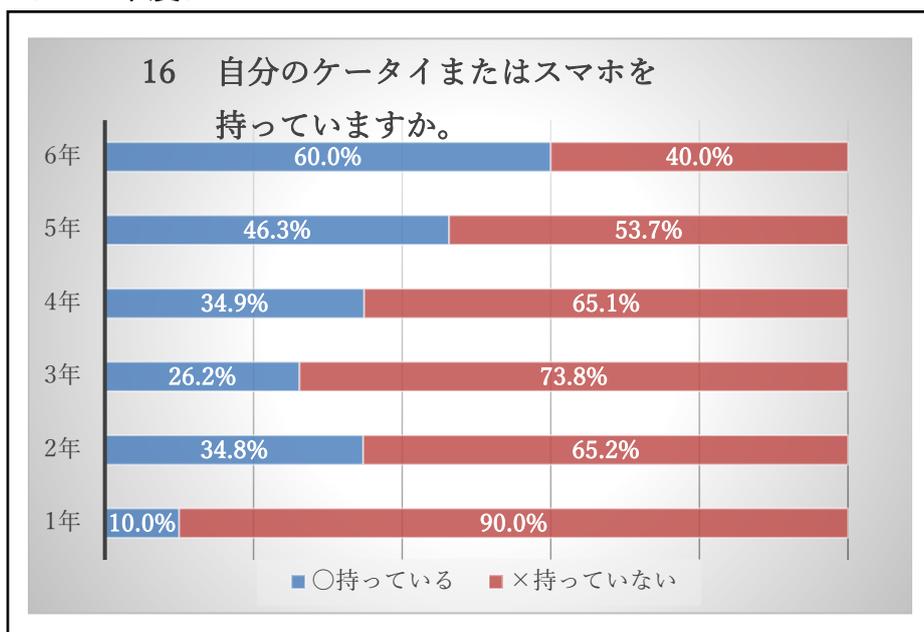
<R6年度>



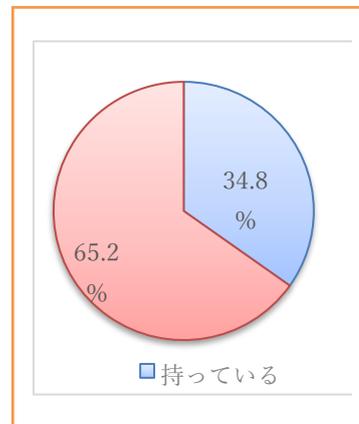
<全 校>



<R5年度>



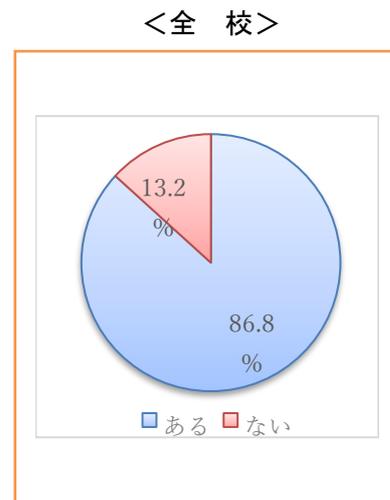
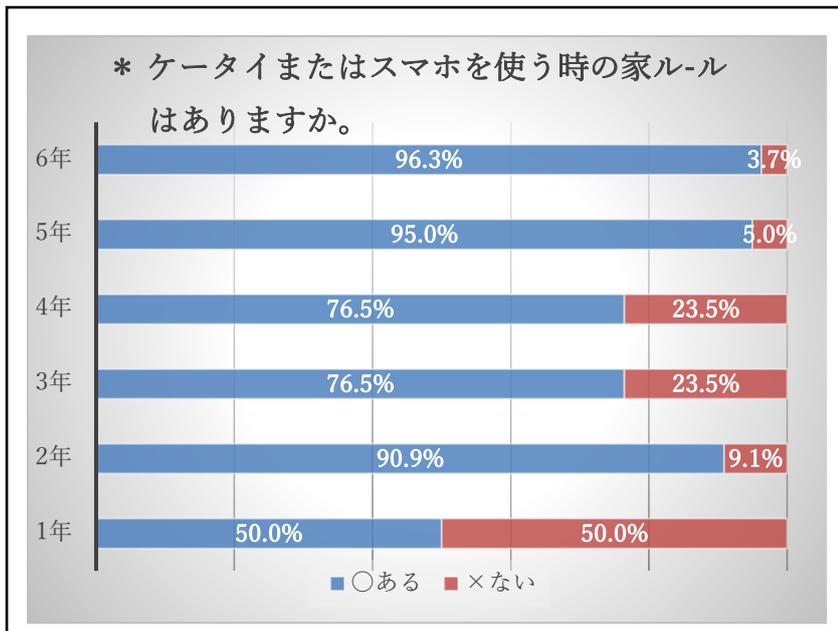
<全 校>



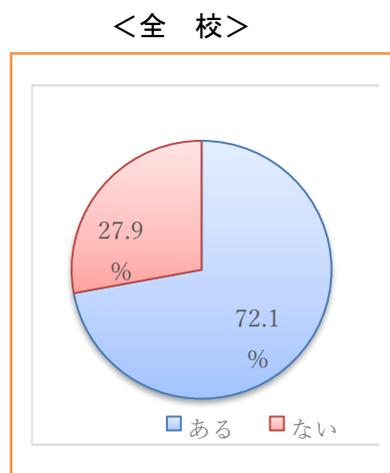
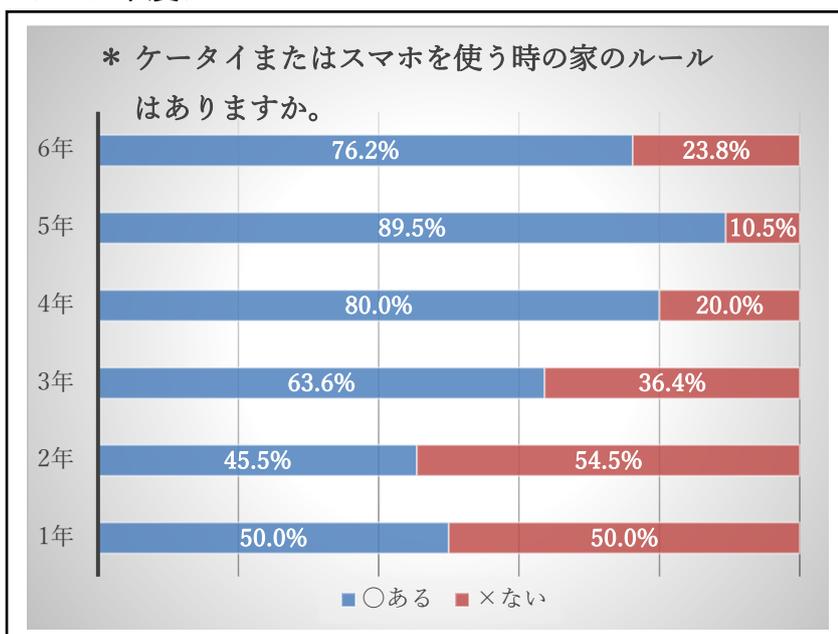
高学年になるにしたがって、携帯電話の保有率が高くなる傾向は、昨年度と変わらない。昨年度と比較して変化が見られるのは、低学年の保有率増加であり、今後もこの傾向は進むと考えられる。

携帯電話等の端末の扱い方等についての学習機会がさらに必要になってくる。

17 ケータイまたはスマホを使う時の家のルールはありますか？
 <R6年度>



<R5年度>



昨年度に比べて、携帯電話等の端末使用にルールを決めている家庭が増えてきている。このことは、学校でも SNS 等の使用方法について学習会を開くなど、ルールの必要性を伝えてきたこと、各家庭で問題意識をもって児童と話し合う機会がもたれたことなど、一定の成果が見られている。ただ、ルールがないと答えている児童も見られるので、引き続き SNS の利用等について各クラスで話題にしていくと同時に、学校全体で学習会を開くなどの取組を進めていく必要がある。

